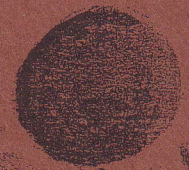


野津原方言集

続26



2011 6/28



表紙画……………首藤和美

題字……………姫野順子

★ ご協力いただいた皆様 ★

故人☞松岡実、内藤忠人、県五六、橋本杉平、小野才二。

那須量、熊谷義人、佐藤ミヤ子、佐藤昌史。甲斐英行。

利光節子、佐藤吉晴。

一般☞岡本政雄、那須茂都女、藤塚ヒズメ、渡辺政喜、

足立勇、橋本寛治、川西哲男、豊東サツキ、中山道江、

波多野直人、和田フサ子、中川美代子、田口勲。

★ 使わせていただいた資料 ★

野津原歴史記録会資料、野津原読み聞かせ資料、月の唄資料、
肥後街道物語資料、鷺ガ城資料、野津原観光ガイド資料、
野津原文化財調査資料、文化協会放送資料、商工会観光資料、
宇曾山物語資料。野津原公民館印刷施設。

調査收拾…小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。

監修編集…小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。

事務局、構成プリンター…佐藤源治。

印刷製本…小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。

平成30年4月吉日

野津原方言調査会 大分市大字竹矢

☎097-588-0572

事務局…588-0092

目次

方言説明…………… 3 2

見だし…………… 1
目次…………… 2
はじめに…………… 3
表紙が作者…………… 4

★ 宇曾山街道物語《6》
朝草切りも楽し…………… 5
そんな頃祭りあれこれ…………… 7
臨時バスも忙しく…………… 10
方言説明…………… 11
連れ娘の祭り回想…………… 13

★ 女性の底力
牛飼い人生…………… 15
豪雨のおもてなし…………… 17
神楽舎中内緒話…………… 19
方言説明…………… 20

★ 民話伝承
家なりに地蔵の助け…………… 21
鷺ヶ城の攻撃に豪雨…………… 23
方言説明…………… 25
愛宕ロマン物語…………… 26

★ ふるさとの味
しいら餅弁当…………… 27
焼き栗、柿、里芋…………… 28
イモだんご…………… 29
アラレ恋しや…………… 31

★ 方言子どもの世界
家の仕事手伝い…………… 33
水かたげ 遠足…………… 34
楽しい行事…………… 35
正月、盆…………… 36
秋、冬…………… 37
方言説明…………… 38

★ あげな話こげな話
包む生活文化…………… 39
諺から社会も分かる…………… 41
不思議な夢でん…………… 43
方言説明…………… 44

★ 方言単語
★ 室の玉手箱
明治大正昭和初期…………… 55
ほれ地蔵…………… 57
ムシロ干し…………… 59
棕櫚縄…………… 60
方言説明…………… 61
お膳失礼おわび…………… 62

★ ちょつと一服
ご挨拶のいい子ども…………… 63
人それぞれの…………… 65
方言説明…………… 68



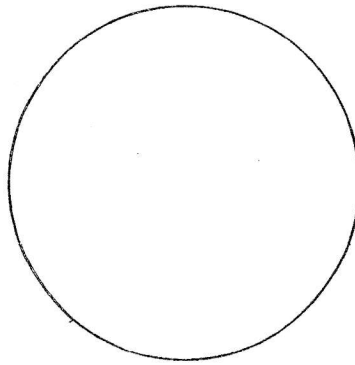
民話、伝承

お宮は高い所…………… 6 9
湖底に沈む故郷…………… 6 9
時代の変貌…………… 7 1
恋の七瀬川…………… 7 2
鉱泉ひろがる流域…………… 7 3
ご褒美の水…………… 7 4
方言説明…………… 7 6

方言単語

『な』⇒『ナ』…………… 7 7
『に』⇒『ガ』…………… 9 8

あとがき…………… 9 9
伝言板…………… 1 0 0



表紙画作者のご紹介

わんちゃんが 家族の一員で いつも心癒され 和む思いがして
言葉こそなくても 話すことはよく 理解もできるように
人間同様に いたわりあった日日が くりかえされます。

少し気分の悪い時は 感覚が鋭く側からはなれないで心配する
心くばりには 感じいります。じっと見つめられる 瞳が輝く時は
『うれしいよ』と 言っているようで こちらも嬉しくなります。
今年は戌年『幸せに過ごしてほしい』と 念じています。

作者の首藤和美さんコントです。

はじめに

野津原方言調査に取り組んで もう26年で4半世紀が過ぎて
ご愛読の皆様には 本当に長い期間の ご支援ご協力 ありがとう
ございます。素人集団がすべてを 手づくりで貫いた お粗末な
冊子ですが ご理解頂いて毎回 ご愛読いただける幸せ。継続も
不思議と途切れず ここまで辿りつきました。

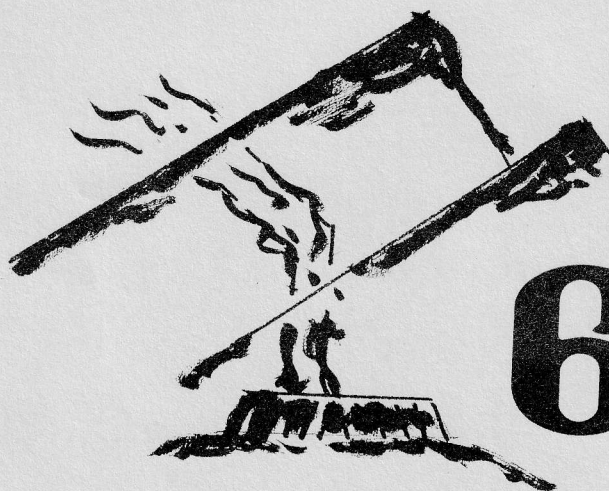
今回も約10あまりの ジャンルに別けて ご愛読に飽くような
事のないよう区切りながら 100頁をみ稔らせました。シリー
ズ物は『街道』『宇曾山物語』の 『No.6編』を 女性の底力などと
活動が常に影にあり 目を見張るような場面も。活動の思い出は
数限り無い。『方言子どもの世界』も 育ち行く故郷の将来の人材
その宝庫も 玉手箱をあけて 吃驚するような 過去からの連な
りが 懐かしい場面になって 回想、連想、走馬灯のように 展開
される まさに桃源郷のようです。

ちよつと一服しては、古い民話 伝承を あげな話 こげな話
に変化して 苦笑い もらい泣き 故郷のこぼれ話が そこここに
そっと 咲いていました。これからも もっとガイト掘りあげて
苦勞したのが 無駄にならんよう 調査つづけます。ひまひまに
これからも ご愛読のほど お願いもうしあげます。

野津原方言調査会 会員一同

五助街道

宇曾山物語



五助街道
宇魯山物語



故郷めぐり『朝草切り』

故郷じ生まれ育った言葉にゃ 人情と悲しい思いでとが 交差しち生きちよる。もうすぐ宇曾山まつり そしち朝草切りゃ若者ん日課ん一つ。夜明けにゃもう大勢が 鎌をふるっちよ。『よだきいなえ』『ひじいなえ よんべ夜なべに縄うノウチ ゆう出来んじ情けねえやら はがいいやら』『はりこむなゝ』『うっとうも キニョウおぼんかん ダルかたげしち ヒジイケンド 兄やんが早う起こすき ヤエコチャねえ』

若い二人ん娘ん会話が 夜明けん山肌に流れ ジョーランが張ったエバにかかり 谷じワクドがなく声あ さわやか。ナバ木を伏する山にゃ ええらしい仔牛をひいち イケウチん姉さんがもう来ちよる。と そんな時じゃつた 一人が足う滑らせた 『こりトンツキナァ』 なげたイイデに ツカマルト引いちみた。

『ああこそばいい』 上着がめくりあがっち 柔肌が覗くと胸んふくらみがチラリ 見えた。『おおきに あゝ苦しい』 露にずぶ濡れになっち 前だれじ顔う拭うと も一度『おおきに』ち 頭うさげた。ひとつサイデータ火焼きう 『食べなゝ』『やしぼんごたるけんどうめーなゝ』

ヤゼン馬んツシン ホヤが切れち センチンに行くにまっ暗。チョウケをけたぐり テショウと おへぎを ヒックリカヤシち 『やんどんような やたーねえ』ち 怒られた。『チャームゲネエ』『スモツクレン事 でん すぐ怒るんで』『でん本当は優しいこと』『そうじゃろうか』 そんな娘ん言うごつ 怪我したんじゃねえかち 心配しちよるんかん知れん。こん前も米をシコウチハガマを抱えたら『お腰ん紐が切れち ずり落ちてち』『チャーどくくる』

昔しゃ男しがヨバイに 行っちへコ落としたち言うけんど それよりゃいいかな。二人ん話がもりあがった頃にゃ 男しどもが話す声も 近うなったき草ん 束がデーブン出来たんじゃろう。

『さかしいないいけんど ヨロケは困るなァ』『ブクン上かるタダジッチ 子もりシヨンナいいけんど イマキョブラサゲチユサンゴに乗っち せっちチ言うんで』『そうじゃけんど ええらしい顔しちよることなァ』『バッチャロ笠かぶっち 田植えしよつた時 あん尻ん大けなこと』『田のクリ穴ほっち わやくしちバックンヌ いけよつた格好は 気になるで』

『こいさ又遊びゆくかな』 祭りを区切りに、農作業が一段落するけんど 朝草切りゃ若いシタチン 社交場でんある。乳を流すごつ霧が ひろがっち 宇曾山の頂きゅチット 覗かせち夢とロマンの一時は 静かに過ぎち行きよる。美しいせせらぎに 切り飛んだ草花がフタヒラ ミヒラ小石にさわり アブクに乗っち流れち 行くんを見ると 若い人たちん心ん中に 燃えちよる可愛い花が それを追っかけち行きそう。

もくもく湧きあがる白い雲は大気の色 やんがち雨となっち又大地に帰ちくる。太陽と水そしち恵まれた場所に 心の支えとなっちある山 宇曾山にゃ神仏とん 関わりあい長い歴史を秘めちよる。4^億年も昔に水ん中から 上がった人間の祖の祖が今日まじ 続いたこつう思い合わせると ほんの一瞬の出来事にしか 過ぎんこん物語。じゃかなァそれもいいか。

山道かる風が吹き上げち 山仕事かる帰る娘たちん スソを荒らす様も 月明かりに湯あびする 美しい姿体も ほんのひとコマ。水落つる滝んシブキに 木をゆすり葉を喜ぼする ほとりに土より生まれた 食べ物と並ぶると 香り豊かな野の物が 生きる糧となっち人を 助けちくるる 世の仕組みに感謝じゃな。



村祭りに酌み交わす酒に リズムん高鳴りに踊る 里人ん心の中
にゃ時代ん中じ 押し流されち亡うなった人ん 霊まじ加わっ
ち故郷ん よさをしみじみ味わいそうじゃつた。セリはセマリん
語源かるとか 川べりに香り漂う ゴボー サンショウ 秋ん稔
りと 故郷は苦難ぬ忘れさせちくれ 宇曾山の山懐にゃ 人ん心
と心が寄り添うちよる。

そん頃ん祭りあれこれ

神や仏を祀る事が祭りじありゃ 人をそん気持ちにさする事も
祭りん一つかん知れん。表面だけじノウジ 遠くは一の瀬川原に
あった 普門寺時代の修験場があった 聖地に大望抱いて 修行
に入った人たち 側面かる守る為に母の力が 大なることを証
す事に あえて女人を近づけなかった。そげな厳しい掟が そん
まま受け継がれち 今日まで続けられよる。

そりゃー女性差別じゃねえ 女性の力のいかに大きいかを 示
したもんでんあろう。それに耐える力を養う事を 中心に修験に
励んだ そん昔ん人たちの厳しくも 雄々しい心が忍ばるる。あ
えて近づく事を避け 大願成就を念じた偉大な女心 母の強さが
しみじみ伺え 女人禁制が良薬となって 悟りを開くのに大きな
役割も 果たしたことや今日まじ 受け継いじよる母性像こす
人類本来ん姿じゃろう。

男親が妻の手を引き子どもを 背に上る参道の微笑ましい 風
景はいくらも見られるんが 如実に物語っておるよう。母性を大
事にする根本理念こそ 家庭円満平和じあり それが一家団らん
の 表情としても現れて来る。こん頃の若い二人連れでん アベ
ックと言う考えだけじゃのうじ そん根底にゃやっぱ 幸せを念
じ神に心を依頼する 信仰ん気持ちも見らるる。そこに幸福と健
康が約束 さるるんかも知れない。

ういういしい肢体に汗を滲ませち 顔赤らめた彼女の胸ん隙間に 木木をすり抜けた 青春の風がそっと迷い込む。なにか香りのフクヨカナ それが彼女の女性独特な 香りと交差しち周囲の人たちを 立ち止まらせる。仄かな香りに誘われた そんな香りに魅かるるといつまでも 側にと茶目っこが足を止める 摂理がなでか心を躍動させているごたる。

彼の手がそっと側に来たので 慌てて飛びくだる一幕が 周囲の人たちにも笑顔を醸しださせた。明治に入って女性の参りも多ゆうなった。さらに女性の昇殿も許される 彼岸の中日と正月には 奥御殿までとつめかけるありさま。そげなスタイルに変貌して 子どもの虫封じのご利益は 一層その新たかな神となった。

拜殿から36段は素足で昇る 石段は冷たい季節もあったが 気分引き締めての昇進だけに 高貴な思いも脳裏を走る。素足の裏は落ち松葉で刺激され 冷たい感触は別世界に誘われる。途中平坦部分があり 石段はさらに28段が続く。無心に昇る人や連れと小声で話が交わされる。梢に風が無心に鳴っているよう。

恭しくお参りする姿にゃ まず無病息災や家内円満 健康や幸運など多種多様だろう。お参りが終わると東側から 南側に回って裏側の土道をくだるが まさに小砂利様の冷たい道に 遠慮のう落ちたままん 松葉が敷き詰めたよう。時には滑りんキアイ 足の裏の刺激は灸の壺もあるき 心配せんでんいい。

吹き上ぐる風にあおられち やっと元ん場に辿りち一た。並んだカラフルな履物が『しよわなかった』ち 迎えちくれたが まさに心霊の境地。心が浄化されたごつ 改まった気持ちになるんも 不思議な時間でんある。ほっと振り返った奥ご殿は『幸せになりなさいよ 自分の努力で』ち 聞こえるよう。



お祭り時間帯も前日から 次の日まじん3日間じ あった頃
やら 日の出かる日没まじを 厳守した時代もあったが 年や月
ん移り変わりやら 世相ん反映なんかもあり 前日ん夕方かる当
日ん夕方まじ。さらに当日午前0時ん 戸開きかる夕方までにな
ったり 夜の10時かる当日午前中ん 頃もあったごたる。

この頃んように自家用車や 国民祝祭日となった祭典とで 今
は午前0時の戸開き⇨終日の現在祭典に 定着したようだ。参拝
の人たちの夜中組と 朝から組の2つんパ●ターンが 出来てか
らは『ゆっくり組』も 入って時間もその時時で 大きな幅をも
つようになった。

五穀豊饒は勿論であるが 子どもん『虫封じ』を中心に 商売
繁盛 交通安全 かつては戦勝祈願 大漁祈願なんか 世相反映
の表裏が 厄よけ 合格祈願 結婚祈願 などなとも 仲間入り
した それらん願いがかなえられるんも 先人たちのひた向きな
思い崇めてきたからでんあろう。

神霊のご加護もあり 本人の念ずる思いも それぞれの場面
によっち交差する そこに人間の偽らざる心の思い それがきっと
神に届いたのじあろう。ご利益だけを宛にするでない 信の思い
は欲も払い己を含めて 多くの人たちの幸せを 念じた崇高な心
がきっと 願い聞き入れてくれた。そんな気がするものである。

無我の胸中で子の幸せを念ずる時 そんな思いは必ず取り上げち
くるるもん。幸せも約束しちくれる そこに人間と神が一体と
なる刹那じあり証しかん知れない。松に鳴る風のハーモニーが
心地好い風に囁くよう そんな囁きは心まじ 洗ってくれるごたる
から 不思議でんある。

祭りはこげなふうに 移り変わったが念ずる所は同じだろう。

里の人はたとえ貧しくとも 不足の中じ仲よく楽しく 過ごし
ち来た。自然の中じ恵まれた一頁は 大切に受け継いで それに
は宇曾山の真心の ふれあいがある。木の枝 草の皿じ食べた
摘み草にも万葉の味があり 人と人の心を通い合いに こぼれ陽
は暖かく心の中に そりゅう知らせてくれる。

花に寄る鳥も暑さをよける 谷水も秋の移り香も 雪に咲くツ
バキのその中には 人の心を癒し安らかを 念じてくれるものが
多い。じゃきいかここには 人が安住を求めち 集まったりもす
る。神がそうさせるのではない 自然の摂理がそうさせる 不思議
さがあるき 生きられるんじやろう。

臨時バスも忙しく

臨時バスが最終便のあとに 続いて戦後ではフル運転。本町車
庫は乗車整理に追われる。到着便が10時頃から ひっきりなし
に来て 折り返し帰りの人たちが 夜中過ぎには列が出来た。空
は晴れてか 満天の星空にキラリ流れ星も。見上げた空間にいつ
もとは 異なった思いはきっと 今参拝した神との内緒話が脳裏
に残ったのだろうか。

バス利用でない人たちも 直入、庄内、などからん 参拝客も
あちこちかる集まる。夜の銀座にはほど遠いが 夜の賑わいには
お国言葉 方言も飛び出しち 思わぬ賑やかさが 醸しだしちよ
る。嬉しい気持ちになる 喜びん思いも こもごもにしっかり
抱いての帰路は心身ともに 浮き浮きとしち。

『あら流れ星』 誰かが言うときとサッと 一斉に空を見上ぐる。
異口同音の気持ちさが 不思議と連なり思うが一緒になる。笑顔も
あここに話も爽やかに 天真爛漫を絵に書いたように 嬉しい心
の発露すも知れない。



夜道を辿って来る人も多い 若い人たちん戯れも 時にゃ風評を立つる。ある方面からは途中に積み上げた 藁コズミが時折ん悪戯じ セリカエサレチョル。それも転々と途中の 場所にあるんが決まっちこの頃じゃき 百姓さんにしちみると 迷惑こん上ねえこちなる。じゃがそん家ん人たちも 『まゝいいか 風ん通りがユウナッタ』ち 笑ってコラエタトカ。

ソゲナ若い人たちも 帰り道にそんままん姿を みると心じゃやっぱ済まんち反省したかん。若気んハズミち許す そん人たちも 優しく偉いち思われる。夜の参道ん明かりが 木の間がくれにチラホラと 揺れち『御戸開き』を 待つ人たちん姿が 多うなつたごたる。今年も元気に過ごせた そげな思いやら病氣したけんど すぐユウナツタンも ご加護じゃち納得もする。

露店のガス灯が光 名物ん『アメガタ』が 帰り客に謎かけしち商売繁盛ん 時間が待ち遠しいごたる。拝殿下まじ馬を頼み運びあげた店じゃき そげな気持ちもゆう解る。瓶に入ったニツケ水ドマ 一汗かいたもんじゃき 喉潤いにゃ格好ん飲み物。手がでかかると店ん親父 ポンと栓を抜くともう 一丁あがり。

△△△ 方言説明 △△△

5 P そしち…そして。ふるうちよる…鎌で切っている。よだきい…もう代議な。ひじい…疲れた。よんべ…昨夜。ノウチ…なう。はりこむなゝ…精出します。うっとう…私。キニョー…昨日。ダルかたげ…下肥を担いで運ぶ。ヤエコチャ…大変な事で。エバ…蜘蛛の巣。ワクド…蛙。イケウチ…親戚。コリトンツキナァ…これに捕まって。イイデ…束ねて運ぶ材料。サイデータ…差し出した。ヤシボ…くいしんぼう。ヤゼン…昨夜。ホヤ…電球。センチン…便所。チョウケ…桶。テショウ…皿。スモツクレン…役にもたたず。

- 6 P ヘコ…フンドシ。ヨロケ…ひ弱な体質。ブク…綿入り子守用の衣服。タタジッチ…軽くたたいて。シヨンナ…していますか。イマキ…腰巻。ユサンゴ…ぶらんこ。バッチョロ…竹の皮で作った雨よけ笠。クリ…片隅。バックン…蛙。アブク…アワ。
- 7 P のうじ…無くて。そりゃー…それは。
- 8 P 彼岸の中日…彼岸の真ん中の日。キアイ…思わず気分が。
- 9 P ゆっくり組…朝ゆっくりでかけた人たち。こげな…こんな。
- 10 P サット…一瞬に早く。

8 宇曾に出ようか 荒木に行こうか

四辻峠の 思案顔 ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ
ホイホイホイ。

どこからか 馬子が唄う馬子歌が 聞こえて薪を オセ出すのか
山肌に届いては 返してこちらにも 聞こえてくる。喉り達者な
ひげ面が目に浮かぶ。じゃが案外な 美男子じゃつたりしち 若い
娘たちがそば耳立てち あんげこんげ 見回しよる。連れのうち
た里ん娘が 『そろそろ出番』ち 思うたんか 『あっちかる
馬子歌聞こゆるで 負けたごたりゃせんな』 『やーありゃお前
隣村ん 吉ちやんじゃが』 『えーそうな りゃーいい声しちよる
こと』

とそんな時じゃつた 五助さんが立ち上がると 潤いんある声じ
戻した。

8 肥後ん殿様 お駕籠を降りち

民の夕餉ん箸を取る ハ 七瀬んせせらぎ 小鮎がスイスイ
ホイホイホイ。

『やっぱ五助さんが 一枚上じゃなァ』



祭りに参拝する道々幾つもあった。南は大野、戸次、河原内。東は光吉、山際、西は温見、久住、直入、北は庄内、狭間、横瀬それに野津原かると。古い幹線じゃーの瀬かる参ったんか途中に丁ごどん石柱がある。一里ち言うき今ん4キロ。愛宕山に母親につれられち松葉かきに行きよった連れん娘んコンメエ頃ゆう眺めた宇曾山。

春はチット温こなっち薄着じ上る姿がゆうシレヨッタ。秋にゃまゝ日傘うさしたそれも色とりどりん模様が参道んあっちこっちに鮮やかに見えち彩りがうつくしかつた。娘心に写るシャレタ着こなしふっと自分の成長しちいい人と一緒に参るそげなこつち重ねあわするとぼっと顔が赤うなりよった。

『お前もそげな事があったんか』『そうで娘じゃこと』『そうじゃつたのう』『なんち思いよったんな』グイとヒネラレタモンジャキ『アイタ痛えじゃねえか見よそうミミズバレが出来たどどげーしちくるるんか』『知らんで膏葉張っちよきすぐユウナルワナ』

一の鳥居かるチット上った所い信者が作った水貯があった。喉ん乾く頃ん場所じ救わるるちカンカラん葉をむしるとクルット丸めちすくうと口に運ぶ。そんな美味いこと。人の親切心くばりの水貯めはそげな目に合うと格別に心の染み入るごたる。『うっとうもユウ飲みよったんで』

8合目ぐれん左にチョコット入った谷窪にも水飲み場があっち手じスクウチ飲むと流れかけた汗がスート引く思いがするんも人の優しい心くばりが助けちくれよるごたる。人間は一人じゃ生きられん無言の世話になっちよる。じゃき御利益があってん一人占めせんじ困った人病気んしにも出来るこたしちあげにゃなえ。潤んだ目にうっすら涙ん娘。

顔をじわっと覗きこんだら 涙を拭いち『なんな』『いんにゃ
お前はやつばムゲネエノウ』 父親んごる五助とん 道連れが
幸せいっぱいになるんか シャキンと立ち上がると 『もうすぐ
奥の院じゃな』 標高660メートル。最近できたとかん 東京
スカイツリーが 634メートル 『イッシュョグレン高さじゃな
ぁ』『じゃのう それより高えごたるが』

こん坂道う子どもう背に おかちゃんの手を 引つパッチ参る
そん気持ち 子がムゲネキコス。ダッタ母親をヨコワセチ 親父
が子どもと奥御殿に お参りするんが当然じゃろう。素足ん感触
も汗が飛ぶような 涼しい風も そん風に鳴る古松の梢も 天地
すべてが人間の生きざまに 応援しちくるるきこす 幸せそのも
んでんあろう。

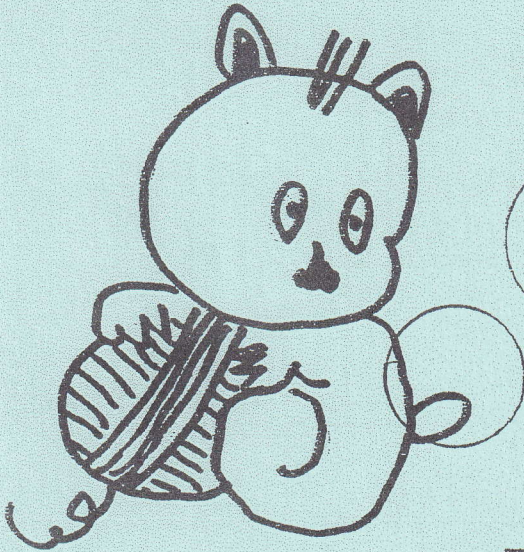
魅かれち参りたい気持ちにさせらるる そこにゃ語り尽くせん
神との絆 人間の本能が組み立てられち 生かされ幸せな家庭が
構築され 楽しい家族が無病息災に 過ごせるんじゃろう。空の
世界じあってん空ん心が 不思議な糸に結ばるる時 無限大ん力
も貫い 生きがいになっち 幸せ人生が回転するんじゃろう。

『さぁ拜殿に来たど』『えーと辿りついたなぁ』『だったじゃ
ろう』『やっぱ五助さんがん 足ん丈夫にゃ 叶わんなぁ』
『そうか おおきに ふんなここじ待っちょれや いい婿じょう
に巡り会うごつ 頼んじ来るきのを』『チャアリャ ジャナァ
お願いします』 可愛い両手を合わせち ご助を拜んだ。そん姿
は素直な娘ん気持ちを 赤裸々に見せてもいた。

走ってくだった五助ん 笑顔が目の前に大きく現れた。『あ
んの優しい娘にゃきっといいお婿さんに巡り会うき 優しい気持
じ大事にしちもろうち 末永く幸せに暮らせ』ち お告げがあっ
たど。『ちゃー嬉しい 五助さん大好き』



女性の底力



牛飼いに執念燃やして

若い青年団時代から 将来の農業は多角形が必要と 夢に描いたそれを実行に移した。経営も農業、林業、畜産、の3本柱には予想以上の 苦労が待ち構えていた。が若さもあって 夫婦の絆に乗せた取り組みは 順調に近い流れでもあったが 時代とは心の描きとは 時として変貌するもの。

戦争遺産の林業は 一番手に狙われた。安い外材に押された相場は無残にもものしかかる。然し農家には米の強みが 安堵の道案内はしてくれた。米1俵増産の声に 若さは無性に力戦して 横ばい畜産をカバーする。畜産も農地の草が使える そんな視点を拡大しようと 焦ると市場は常に変動。

素人採算ではどうにもならぬ 窮地にもなる事しばしだった。然し今の農村には土地を生かす 労力を培う 後継者の育成などが要求されて 戸迷いが来る激動の人生。ここで潜めては折角の 目標は無残に消える不安。紐引き締めて畜産に力点を 方向の見極めが重要にもなる。

世話役も来るが多くの人たちに 世話になったお返しも人生の務めである。世話役は別の会も回ってくる。厳しい現実には避けられない 寝食もわすれるような期間。ここで挫けては元の木阿弥と 畜産に集中攻撃して 増頭計画につき進んだ。当たりがあって生産は順調 反対に米の減反は無情にも進む。

残った畜産は上げ潮に乗り 狙いが当たった喜びは 隠しきれないが疲労はかさなるのが 高齢になりつつある身の証。しかし小屋の牛のあどけない姿は 励ましにもなって取り組み どうやら50年は夢のように過ぎた。ここまでやれたのも 牛が順調に育った証だろう。

世話役が続くとつい 愚痴もでるが試練の中じゃ いつも楽だ
けじゃねえち 皆んなが言うぬ聞くと 『やっぱそうじゃなァ』
ち 眠たい目をこすり 飛び回る日々が過ぎ去っち行く。嫁いだ
娘たちん応援が 挫けそうな体に 拍車をかけちくれた あん時
あん頃。ふっと回想すりゃ 懐かしゅ蘇る。

青年団の頃にゃ盆踊り大会を 野津原じん時ども 歩いち行き
帰りに 側じ人目さけて『しよわねえんな』ち 言われ時どま
『こんしがおるき』 そげな勇気が湧いち がんばらにゃちも
思ふた夏ん夜じゃった。団のしたちが こいさ上がっち行くき
『分団訪問』じ 交流研修 今思い出しゅ懐かしい。

畜産の役職じゃ研修会もある サイレージコンクールも ある
たんび飛び回るけんど 皆んなもゆう ついち来ちくれた。しみ
じも語る横顔にゃ 真剣世話した ご褒美ん証が 刻まれちよる
ごたる。青年団の二人が結ばるる そげなロマンスは多かったが
畜産に執念燃やすなァ 初めちじゃあるめ一か。

振り返っち見りゃ『あっと60年過ぎた』が 牛小屋にゃ可愛
いい ベベノコが 朝行くぬ待ちよる。そげなんぬ見りゃなえ
『まァ続けて一けんど』 隣ん旦那を見ると 『じゃなァ折角
ここまじ来たことじゃし』ち いたげな顔。でん無理や禁物じ
ゃきなァ これかる先 どこまじ続くかが 問題じゃが さてと
首うかしげち ニコット笑った。

厳しい仕事にゃ 間違いねえけんど 競りに出して連れて行か
るる時ん 別れも悲しいが 思い巡らして 『さてどしたもんか
のう』 未練が残るのも 有意義じゃった証でんあろう。老夫婦
おしどり畜産も 思いでいっぱいが 花としち咲いたと思ゃ よ
かったんじゃ あるめ一か。そげな人生が あってんいいち 思
うがなァ ご苦労さまでした。



△△△ サービスで おもてなし △△△

昭和36年《1961》 あれかるもう55年はず すげたが大分県なソリヤマァ 凄い集中豪雨じゃつた。三重県かるん修学旅行生徒が そげなドシャブリん中う ここまじ辿りち一た。とにかくトイレが 心配じ停めたもんの とてんそりゃもう 大雨じ連絡しあうと 別府と大分とん中へんにある 海岸べらん崖が土砂くずれ おまけに運の悪い時にちゃ ソキー電車が通った。そんマウエに落ちてち 電車が一部分埋まった。

死者31人、怪我が36人、そりゃもう大分県の 災害史に残る惨事じゃつた。野津原まじ着た 旅行生たちゃ 地元ん区長たちも相談しち 周辺の本町ん家に都合 なんか一泊便宜を 頼み分散したき 危ぶねこんまま 行きどましたら 水没場所があるき ここじ止まったんが 幸いでんあつた。

電気は消えちよる 食い物じゃつち そげいいもんなねえ。がとにかく夕飯んシコシチ 飯ん一番泊まりになった。店にあつた残りんパン ユウメシにシコシタ あり合わせん夕飯。夢に胸う膨らませちよつた 若い生徒たちに しちみると 降っち湧いたごたる水難事故に 気が動転する思いじゃつろう。

なんか夕飯になった 暗すみじゃローソクが ちらちら明かりに それでん雨に 途中じ動けんごつなつち 思ゃまゝ不幸中ん幸いじゃろう。材料んあつた家じゃ 百姓夕飯ん『だんご汁夕飯』も。『雑炊でんいいな』 気のゾクそうに 説明する家もありよつた。じゃがこん場になつち 贅沢もいえん シチクレタソン『オモテナシ』は 振り返ると 大きな思いでにも なつち当時ん 生徒から聞いたが 心こめたお接待は 物や金じゃ変えられん 心のおもてなしじゃろう。電車がコムからち 後ん電車を利用した人たち 悲喜こもごもな 人生縮図もあつたごたる。

取り入れが中途じ 新しい米はまゝ 少なかつたがとにかく
食べさせて喜んでもらう。『内々狭えき泊まられんが そんな代
わり火焼き焼いち 来るき頼むな』『嫁ごが里に加勢に いっ
ちよる食い物は無理じゃか 泊まるな5人ぐれいいで』 お互
い横ん連絡じ全員が ここじ一晩泊まらるるこちなつた。

引率ん先生もそれが 一番苦になつたごたる。が農村じゃつ
たき 何はのうでん 食べ物はなんとか工面が……素朴なも
んでん 腹ひとつが約束された。

真面目に放課後 学校じ掃除まじしち こん電車に乗つた子
もあつた。さまざま運命が 瞬時に起きたコン時ん災害。今
思うと地区ん人たちも 『もっと接待しちやりたかつた』ち
悔しがるが そうじゃないんです あの時のお接待は 地獄で
仏に会つと思いと 語る両眼から滲む涙。人の思いやりは 常
にどこにでも 咲くもんです。

腰巻を引き上げち ジャボジャボ水ん中を 走りながら夕食
を 濡らさんごつ前かけじ 覆いしち駆けた 執念はまさに女
性特有な 底力じゃなからうか。はだしん痛さは 慣れちよつ
てん かすり傷やスリムイタリ 次ん日に見りゃもう あっち
こっち傷だらけじゃつた。

翌日は雨もやみ 水も引いたがまだまだ濁り水 けんど接待
しちくれた 女性の心は 真清水んごつ美しく 素晴らしい輝
きんようじゃつた。『ありがとう』涙じ 目を腫らした生徒。
こん感激体験は きつと将来の人生の 糧になるのじゃなから
うか。一碗の雑炊でん 人の心が込めらると 高貴な料理に
も 引けをとらぬ美食にもなる。『元気しちよりよゑ』『は一
い サヨウナラ ありがとうございます』『お元気で』

あれかるもう55年 今頃は成人しち 幸せじゃらうか』時
に回想するん災害ん晩のこと。



◎●◎ 神楽舎長ん内所方 ◎●◎

田舎神楽舎が農閑期にゃ 近郷に頼まれち出かけ 奉納がゆうあるが 時にゃ遠方かるん要請もある。昼かる舞い始めち 晩方にゃ一番の見せ場 大蛇退治に入る。煙幕がモクモクひろがると舞台に 大蛇が静 静と入っち来る。いよいよ荒神とん 巴合戦じ巻きつき 剣が裸電灯にキラリ 光るとノタウチマワル。

汗にまみれち入った 使い手はフーと 一息吐くともう 失神状態前になっちよる。厳しい芸の世界にゃ 練習と出番がくりかえさるる 決まりが続いちよる。えーと予定ん 『戸開き』んクライマックスじ 納め神楽となっち 神楽囃子も鳴りを潜め 観客も四散する。

汗を拭き拭き 道具を丁寧にかたづけち 帰りん車に積みこむと 『また来年も頼むで』『お世話になりました』と 西と東に別離ん時が来る。農繁期は出来るだけ 避けた番組に これも神の仕事と 収入にも結びつく。道具の準備補修 稽古なんかも若いしたちにも 教えちよかにゃ 高齢になると 激しい神楽は舞えんごつもなる。

えーと帰りち一たな もう11時になるが 舎長かたじゃ若いしたちと 舎長んおかさんな 寝ずに待ちよる。無事に人気ゆう済んだか また来年の声もあったか どけ言うてんやっぱ 気になるんじやろう。『ひずかったな』 言葉少なに言うんも 気を使うた挨拶。『来年も行くきな』 安心させてーが人情。

内緒じカンピンが 動くのん心くばり。ひずかったにチツトでん 楽しみしちよつたんじやろうき。座りヨセンモウ 手はカンピンぬ抱えちよる。奥方は気くばりしながら 顔色みたり 元気あまああるかち 眺め比べよる。若い座員もおるき それも気になるもんじや。

若い嫁さんな『もう連れち帰りてー』が ままならん厳しさに
舎長が気を利かせ 『お前どう朝が早かろうき もうインデンイ
イド』 そんな声に答ゆるごつ おかさんが包みに 入れた夜食を
嫁ごに持たする。相づち打つごつ 『ほんな先え帰るきな』 目
と目が物いう夜更けん座敷。

あんたどうは 泊まってんいいんで おかちやんが 一声言う
と『ゆっくり飲みよ』ん 暗示じゃろう 『ほんな泊めちもらう
で』ち 茶碗酒を傾けた。激しい神楽は どう言うてんベテラン
が 光輝くもん。こげしちこす 田舎ん神楽は 人気ゆう続いち
よりもする。が内緒方は大事でんあり 舎長もそりゃ ゆう解っ
ちよりもするが。

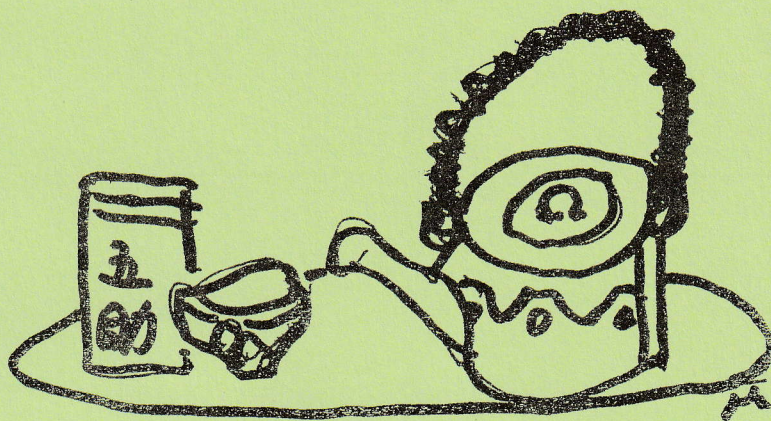
長年の岩戸神楽は こげしち守り続いちよる。影ん苦労も解っ
ちおおるけんど これも宿命でんあろう。

●●◎ 方言説明 ◎●●

- 16 P 楽じゃねえち…楽じゃないけれど。やっぱ…やはり。こ
いさ…今晚。サイレージ…牛馬に冬期間食べさせる資料
の貯蔵。ベベノコ…仔牛。どうしたもんかのう…どうし
らよいかなあ思案する。あるめーか…あるまいか。そげ
な…そんな。
- 17 P ソリヤマァ…それはそれは。とてん…とても。そげーい
いもん…そんなによいものですか。ソキー…そこに。
シコシチ…準備して。シチクレタソン…してくれたその
- 18 P コン…この。ジャボジャボ…水音たてて。スリムイタ…
すりきずになって。しちよりよえ…していなさいよ。
- 19 P カンピン…お銚子。ヨセンモウ…ずわってすぐ。ひずか
ったな…疲れたでしょう。



民話 伝承



シンボリ

△△△ 家鳴り止め地蔵尊 △△△

平家全盛時代ん頃じやつたらしいが 愛宕山の上に鷺ヶ城ち呼ぶ城があったそうナ。ここにゃコゲナ 悲しい物語が伝わっちよる。城を築くこちなっち そんな時い人柱を 鷺といっしょに埋めたそうナ。こりゃ城ん 繁栄を計る為じ 昔はゆうこげな 風習がされよったそうナ。

ところがじゃ 城が出来あがっち 喜びよったんじゃが 夜になると そりゃもう強い 家鳴りがしち 回りんしたちゅう悩ましよったそうナ。困っちしもうた 城んエレシたちが 相談しち 毎日神仏に 参りよるんじゃが 一向に納まらん。日夜悩みよったら ある名僧が こげなこつー 知らせちくれた。

『地蔵谷に 地蔵尊を建てち『人柱おきく』ん 供養すりゃ家鳴りは静まり 城も栄ゆる じゃろう』ち 進言したそうナ。早速 言われた通りに 建てち供養したら そんな家鳴りん振動が止まったち言う。人柱になった『おきく』ん 霊が休まったんか どっちしてん 何よりち皆んなも よろくうだがむげねえ犠牲でん あったごたる。

一時ぁ六地蔵なんかも あったものの 年月ん流れん中じそげな姿も 消えたようじ 行き先もあんまり はっきりやしちょらんが 古老たちん話じゃ 厨子に納められちよる そんな仏たちも そこじ七体が ひっそりと 当時を回想さするごつ 路座しちよる。も者悲しい。

戦前まじゃ ゆかりん人たちが 供養しよったが 関係者が 移転しちかるは 地区の人たちが 香華を供えよるよう。

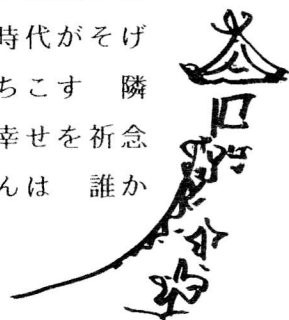
こげな調査ん後はなしにか また人ん話によりゃ 平家全盛ん
あとは こんだ源氏全盛ん頃 こげな話が浮上した。源平合戦が
壇の浦じあった時 義経が猛威奮っち 平家を追い詰めたが そ
ん功績が気に食わぬ 盛衰の激しかった 悲しい時代かん。人が
人う恨まんでん よかろうごたるに なえ。

追わるる身になる 悲しい戦国の世の中。『もう仕方ねえ九州
じ迎ゆる』 こげなこちなったそうな。『解った ほんな竹田城
に 迎ゆりゃいい』 威勢のいい武士団が 決めたち もう安心
じ 『ほんな途中ん どこか一泊』 ほんな七瀬ん 鷺が城じゃ
とほほ こんだこっち来たか。

噂がひろがり 若い娘たちは もう一目でん見てーが 人の世
娘たちん 心理でんあろう。『いつ来るんな』『男らしい きり
りとしちよるんと』『早う見てーなあ』 里はもう賑やかになっ
ち 仕事も手につかん。『こりゃー お前どう ノボセアガッチ
ァリャ 済ませたんか』『いんげ来るかん』『そげー早う来るか
……俺が先に見るんど やんどどうは後じゃ』

じゃが 話しゃそげー 調子ゆうは いかんもんじ 反対に危
ねえち言うことじ 四国かる紀伊に逃がした。『ありゃまあふん
とな オシナギー』 折角急こしらえん 手立てをしよったに
こっちにゃ こんのと。ガクンシャンコ。若い娘たちにゃまあ
気の毒 かわいいそう むげねこされ。

愛宕城が輝きよったに 来客は遂に来たらず。なんか因縁があ
るんか 待人来たらずとは あんまりじゃが これも時代がそげ
なら せめても『おきく』の 碑だけゃ 護っちあげちこす 隣
人愛じなえ。今も静かに眠る 戦国の犠牲者は 里ん幸せを祈念
しち くれちよるんじゃろう。花が手向けられちよるんは 誰か
がお参りしちよる 証でんあろう。



◎◇△ 鷺ヶ城と一の瀬川原ん戦い △◇◎

応永7年《1400》ち 言うき600年以上も 古い話しになるが 時は室町時代んごたる。南朝方んしは そんな名も知られた 菊池肥後の守り親子が 九州全土を制圧しち 京に上るちゅう 夢があったもんじゃき 豊後ん大友守護ん 高崎山う攻みゅうち 画策しよったんじゃ。

じゃき菊池軍な 久住に本陣ぬ構えち 大友ん配下陣地を 手あたり次第に攻略しよった。そん中じ鷺ヶ城も 目的じ大手門の入口い あたる一の瀬川原一带を 征伐した挙句に 一の瀬天満宮に本陣ぬ張っち そん隙う伺いよった。そん頃んやこん一の瀬かる 権現鶴は鷺ヶ城ん 御館地をはじめ 多くん臣下ん侍屋敷でんあった。

侍は城に務めちよつてん 屋敷ん方にゃ家族が 留守番しよるもんじゃき そんな家族やら子どもと 福城寺、普門寺 なんかん坊さんまじも 殆ど殺しちしまう 有様じソリャモウ むげね一事じゃつたらしい。そげんこつしたってん いい事ゝねんじゃがなえ 勝つちよると 強いとついつい 自分ぬ忘れちしまう。

ムゴトラシイ有様が 何回も続くもんじゃき 城にも使いを出すんじゃが なんさま門口まじ 菊池軍じゃき それも捕らわれちしまう。そげなこち一城でん 気がち一たんじゃが もう囲まれちしまうと まさに孤立無援の まるじカニン爪を ムシッチシモウタ ようなもん。

どんこんならん有様じゃが 時間な流れちしまう。菊池軍も本当はもう てごずりよったごたる。がこげな時ちゃ 思わん後ろに敵がオルモン。百姓しがこそっと 裏側かる崖を ヨジノポッチエーと こん事が城にわかったらしい。城にゃ抜け穴もあったが。

ところがじゃ やんがち雨も降る時期じ いつまでんナサケネ
エゴツ 降り続いた。5月15日かる20日まじ なんとまあ
ゆう降るもん。じゃこげ一呑気なこた一 言うちよれんのじゃ。
どんどん大雨になつたき 一の瀬川原どま どんどん増しち大水
になりよった。

今まじ見たことんねえ 大洪水になっちしもうた。おおかたん
家は 川ん近所は土台まじゃ 水が上がりち やんがち跡形も
ねえごつ流れちシモウタ。溺れるしもあっち 泣き叫ぶしまつ
うろたえ回っち 捜すけんどなんと 水ん流れは早えし 濁り水
じゃき シヤント目をあけてん 見ゆりゃせん。

そんうち水は 大手門まじ増えち来た。待っちょつた 菊池軍
も『こりゃまあ どげもナラントバイ』 とうとう 宇戸原かる
大峠う越えち 久住ん本陣に全員が 引き上げちしもうた。何し
てんまあ 大事になったもんじゃ。犠牲者も大水ん為い ムゲネ
エ理屈じゃつたそうな。

鷺ヶ城かるこげな 流れがゆう見えち 大友陣に報告したら
『戦にならんじよかった』ち 大層喜んだそうな。じゃけんど
こん戦いやら 水ん犠牲になった 多くん人たちん 追善供養ん
為に頭まるめち 出家した 館様は生涯 冥福三昧ん日を暮らし
たそうな。

館内に建てられちよつた 廟庵も慶長5年《1600》7月ん
大雨じ 流されちしまい その後は天神免に 移しち後々までん
追善供養が 行われよるそうな。悲運になった 鷺ヶ城じゃが
いつん世にでん 欲が関わるとそこじゃ 醜い戦いがあるもん。
それは心ん殺し合いでんある。今でん戦争が続きよる。それじの
うでん 心ん戦争は広がる 憎しみ合うんも 元を正せば欲、欲
があるからじゃろう。なし欲はるんかなあ 裸じ生まれち来たに
なえ ふんともう。



《《《 方言説明 》》》

2 1 P コゲナ…こんな。人柱…昔のいわれで大きな建築なんかん時に その基礎に人を埋めて 建てる風習があった。エレシ…上級職のひとたち。こげなこつ…このような事を。どっちしてん…どちらしても いずれは。しよらんが…していないのだが。

2 2 P よかろうごたるに…よいとおもうのに。こげなこち…このようなことに。ほんな…それならば。ノボセアガッチョリヤ…のぼせてしまって我を忘れたのでは。オシナギー…もったいないような。ガックンシャンコ…がっかりしてして座り込む。

2 3 P ごたる…ようです。もんじゃき…ものですから。じゃき…ですから。ちよつてん…と言っている。ソリヤモウ…それはそれはとても。むげねえ…かわいいそうで。ムゴタラシイ…哀れでみとられないような。ムシッチシモウタ…取り除いてしまった。オルモン…居ますから。ヨジノボル…捕まりながら無理に上って。

2 4 P やんがち…やがいは。ナサケネエ…悔しくて。シモウタ…しまった失敗した。シャント…しっかりしないと。ナラントバイ…なりませんから《肥後肥前あたりの方言》。じゃけん…ですけれども。それじのうぜん…それでなくても。

愛宕山にゃ今は畑も 殆ど手入れのないままに。小高い約40メートルの平らな山ですが 戦国にはこのような悲恋 平和 豊かさ何かは歴史に 出たり忘れられたり。戦後ん景気がよくなった頃には 周辺の湿地と水が豊富な 条件を生かした遊び池の 案も出た夢ロマンもあった。

昭和戦後にゃ民間バス会社ん 修理工場進出ん夢もあったが……

それも用地買収が不成立か 消えた宿命はもっと 早くからも
ありよった。明治時代後半にゃ 東京ん電鉄会社が 大分かる 電
車を引きこむ夢もあったそう。設計もしたんじゃが途中ん 川
に橋かけになったら せん川底が軟弱じ フトーな銭がかかる。
『やっぱ無理か 故郷にち』 折角ん夢も露ときえにけり。

江戸期は風光明媚な場所じ 四季おりおりん景観が 周辺まじ
感化しち素晴らしい公園 そげな夢をかけた地域青年層が ふじ
棚をつくっていつでも 散策もできる登山道も。戦死者の遺族が
慰霊塔を建設したんも こん頃じゃつた。途中にゃ弘法大師像も
あって お参りする人たちの 香の手向けも多かった。

§ 肥後か府内か 一の瀬越えりゃ お国訛りが懐かしい
ハ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ §

§ アン娘 年頃 姉さんかぶり いつか覚えた 馬子唄を
ハ 七瀬のせせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ §

§ 二の瀬三の瀬 無事瀬を渡り 山の浮動に 笠をぬぐ
ハ 七瀬のせせらぎ もみじがチラチラ ホイホイホイ §

山の木の影に少し 当時の面影残す 石段がある。こさぎまわし
てみると ありし日に積んだのか 人の温もりが伝わるごたる。
盛衰の歴史を聞きたいが 遠慮して 応えてくれぬ その心情は
ゆう解る思いに 無理強いは酷と思った。麓にゃ戦時中ん防空壕が
崩れた形を チット残してあの 空しい戦争ん 傷痕になっちょ
る。

いつか案内して上った 愛宕山に兎どもん頃 母に連れられち
松葉かきに來たち 語る横顔に やっぱ『懐かしいんじゃろう』
言いたげな口もとが また閉じた。



新刊 新編 新書

◎◎◎ 手抜き弁当 ◎◎◎

正月餅があんまり 固うならん頃にユウアル 手抜き弁当ん味 適当な 齒障りと砂糖醤油ん 甘辛な味は人目にも ゆうついち 注目ん的にもなったが 『手抜き弁当』ち 嫌う子もあつたごたる。そん頃ぁソゲー 贅沢な弁当はノウジ 梅干し沢庵がアリヤ 上等でんあつた。

なしか手抜きちゃ ムゲネエケンド 朝焼くツイデン 焼き餅 がそんまま 弁当箱に押し込まれち 風呂敷包むと 一丁あがり じゃつた。昼に開けちみると 固まつた餅が ヘンチクリンに 窮屈そうな顔じ 待ちちょるき 皆んなが欲しがらんうち パクパク。齒の悪い大人は用心じゃが 子どもどもぁ もうちっと 食いちぎると モグモグぐるっと ヒンヌウダ。

餅だけに喉越しもゆうじ 適当な砂糖醤油ん 味が思いおうち 適当な焦げも 味付けに一役。なし手抜きかち 疑問にするしも おつたが 手抜きにゃ間違いねえ。焼いちそんまま 弁当箱に 入れた訳じゃき 簡単明瞭じゃが 言うしゃ何にでん 一言言う 悪い癖があるき 人かる嫌わるる。

弁当箱ん隅に 餅がへばりちーち 離れとうねえち 言うごたるんも いじらしいが それも取っちょかんと 後じコサギトル にゃ苦もみる。ニユームん弁当箱どま 妙にコサギヨルト 減ちしまいそうじ 『そげーゴシゴシ こさがんでんいい』ち 怒られたもんじゃつた。

梅干しどまじかにつくと 塩分じ窪みが出来たり したもんじゃつたが。物んねえ時代じゃき 辛抱しち過ごしたんが 夢んごたるんも 懐かしい考えようじゃ いい時代じゃつたんかん。しれんちしみじみ思う。

△△△ 焼いたうまさ △△△

栗はかなり昔かる 日本にゃあったそうなの。なんでん米よりゃ早うかるあっち 米ん代わりをしようたそうなの。そん栗も一頃は病虫害によっち 全滅したあとに 今栽培されちよる 栗ん元祖が入っち来てからは 改良やら技術ん よさもあっち 継続されちよるとか。

突った栗を縦に傷を入れ 焼くのが一番 栗ん味らしい旨さ。焚き火んあとに出来た オキん中に入れちよくと プチと音がしち『焼けたから』ち 知らせちくるる。いっときオイテ 手をヤケハタせんごつ 皮を剥くと 上等ん味あまさに 『栗より旨い13里』の トイモよりゃ ウメー焼き栗が 食べらるる。

こげん方法じ 渋柿も焼いち食べると 渋みが飛んで まさに柿本来の味かするもん。柿の色は味は ほかんもんじゃ 出せんち言うはず美味しい食べ物じ 名前ん柿は 地球んほとんどじ 通用するらしい。ここらにある『トーゲンジ』は 本当にそん味う そろえちよるが 惜しいかなオテガアルキ 勿体ねえち惜しまれちよる。

こん木の根元ん丈夫な分は 昔しゃゴルフん 道具に絶対必要ち 買いに来ちよつたが それももう昔んものがたり。それでん高い木に実ったトーゲンジ 塾したあとになり 歯に染むごたる寒い頃に 食べておみり そりゃもうオイシノ ナンノ類っべたが 落ちてそうになるき 気をつけよえ。

里芋ん焼いたの 竹の子ん焼いたの 独特な味は先人が苦勞ん中かる 思い付き考えた 食べかたじゃけんど それぞれん味が 人ん 心を気持ちを楽しませち くれる自然たあまあ ゆうしたもんじゃなあ。



芋とカボス妙味デザート

秋から出回るトイモ ちっと固めに煮潰したに カボスン汁を
サッと加えた 簡単なデザート。色が香りが色気を 誘う妙味。
芋煮よっち うっかりしたもんじゃき 慌てち鍋う下ろしたとこ
ろ まぁちっと早かった。けんど『まぁいいか』ち チットつっ
くずしよったら クシャミが連発。

えーと納まっちヒョイト 見た目の前に 色鮮やかんカボス。
今出来たばっかりん 黄色にゃこん コイグリンの カボス が
ゆう連れなうかん知れん。ひと絞りギユ。たらたら落ちた 汁ん
香りんいいこと やっぱ匂のもんな いい香り いい味うしちょ
るもん。

サット混ぜち 箸ん先にチョビット 味見すると こりゃいけ
るもんじゃ。瓢箪かる駒たぁ こげん時い使う言葉かん知れん。
すぐさま 隣んばばさんに 前かけじ隠した 手塩皿にツイジ
『オンノウ』 『オルデ ダレナ』 すわっちよつたんじゃろう
ゴソゴソ よたよたしながら 出ち来た。

『なにごとかえ』『いんにゃ 面白いもんが出来たき』『へー
どげな 珍しいもんな ありゃカボスン 匂いがするごたるな』
『解ったんかえ』『解るがえー 耳ゃ悪いが 鼻はいいんで』
話しゃすぐ 弾む さしでーた 珍品ぬ 前垂れかる そっと出
しち 渡した。

『う こりゃ匂いがいい カボスカえ』『で トイモを煮崩し
たきな カボス絞りかけたら こげなモンが できあがった』
『どう 味見してんいいな』『いいぐれか』 小指ん先じチット
スクウト 口に入れた。ももぐりよつたが 『こりゃーいい味
カボスが ゆう役しちよるわな』

『ナカナカ イイジャネエナ』『そう思う』『色具合もハイカラ
じ 色気もあるなァ デザートとか 言うに出しちみな けっくし
ゃいいち 褒めらるるで』『そりゃどげか まァ合格じゃな』笑
顔が満開した。怪我ん巧妙みたごたる 珍品が出来ち これかる
出番もありそうじゃ。

ちっと砂糖どま 入れち餅ん餡にも 使われそうじゃし チット
やわらしゅうすりゃ スープにもなる。それに色が なかなか鮮や
かじゃき ナンテンの葉どま 乗せちょきゃ 上品な逸品にもなり
そうじゃ。季節限定になるが 旬のもんぬ使う 生活ん知恵は や
っぱヒヨカット した時に出来るもんじゃ。

2, 3日したら 隣んばばさんが 顔見つけち 手招きしよる。
ぼさぼさした 頭ん髪を撫であげち 『何事な』『しかとしもねえ
が こん前ご馳走になった あれを入れた 『ふくれ餅』が うめ
たき 上がんなァ』『ありゃまァ もう考えついたんな』 上がり
込むと 蒸したセイロかる あん香りが懐かしい。

ふわ ふわ 熱いもんじゃき 口もとじ 慌てたけんど 口に納
った『ふくれ餅』 なんといい按配に 餡こに変身したごつ 口に
トロケち 入っちくる。『こりゃー ウメーコト』『じゃろう』
得意面々の ばばさんは 『お前がん 専売特許じゃつたになえ』
『いんげ いいんで こげ旨い餅に 変身しち『タマガッチシモウ
タ』

農家じゃあるもんを 利用しちこす 経済的にも 都合がいい。
そり一季節んもんが なんちゅうてん 一番味もいいごたる。色も
香りも出来だち いい味に間違いねえ。幸せん一時が 静かに流れ
ち行く中じ 若い人ん気がついた もんに年よりん 生活ん知恵が
重なると 思わん珍品が 生まれるもんでんある。



『アラレがイレタデ』

正月餅をつく時に もろぶたに押しこんじ 作った厚い餅を
4, 5日したら四角や 短冊角に切るんが アラレ。寒風に干
した保存食でんある。子どもンオヤツ 小昼ん茶受け 使い前
がいいもんじゃき どこでん作っち 火でイルと 独特ん味も
あっち 遠方に居る人たちにゃ 郷愁を誘う。

畑仕事しよる 茶のみトギに 縁先かる声をかけよる。『腰
のさんな アラルがイレタデ』『オオキニ よばりゅうか』
鍬を畦に立てかくると 前かけん土を払い 縁先に腰かけた。
日当たりんいい縁先にゃ もう盆に茶と いったばかりん ア
ラレが 上品な菓子盆に入っちよる。

『ゆうハリコムナァ』『ナンノ ひまひまになぁ チットで
ん加勢しちゃうち アンマリ足しにゃ ならんけんど』『そ
げんこたーねえで 若い嫁さんな 喜びよったで』『ちゃあり
ゃ ソゲンコツエ』 嫁さんにしてん 上手言うちチットデ
ン しちもらうんが 健康ん秘訣ち思うんじゃろう。

茶につけたアラレ 別に手じツマムト 口に入れた。歯がチ
ツタ不安じゃが やっぱ歯じ噛むんが 本当ん味になる。昔か
る茶受けか 子どもンオヤツ 哀愁があっち いかにも百姓ん
取っておきん 素朴な味でんあろう。葉袋にいれたり オトシ
い入れたぬ 汚れた手じ お構いなしにツマイアゲ 食うたも
んじゃが。

炭火も七厘も もうメズラシュナッタ。レンジが活躍するが
炭火に 焦げた独特なスタイル そんな味はまさに 農村の風物
詩にもなっちよる。こげな食べ物に育った 幼い頃ん思い出は
いつまでん心に シミチー Cholもん。じゃき故郷はいいも
んち つい涙もろうもなる。

★★★ 方言説明 ★★★

- 27P ユウアル…よくある。ソゲー…そんなに。ノウジ…なくて。ツイデン…いつしょに。ヘンチクリン…風変わりな変なことになって。ヒンヌウダ…飲みこんでしまった。コサギトリ…無理に削って取る。ニユーム…あるみにゅうむ製品。ゴシゴシ…手荒に洗う。
- 28P オキ…燃やした後の火の固まり。オイチ…おいて。ヤケハタ…やけど。トイモ…甘藷。ウメー…おいしい。トーゲンジ…元山とも言うが地方呼び名。オテガアル…時折波みの混じったものがある。オイシノナンノ…この上なくおいしい。
- 29P チット…少し。ヒョイト…もしかしたら。コイグリン…濃い色。チョビット…ほんの少し。オンノー…居ますか。オルデ…居ますよ。へー…そうですか。こげなもんが…こんなものが。
- 30P ナカナカイインジャネエ…すばらしくよいのではない。ヒヨカット…もしかしたら。しかとしもねえ…たいした事もない。うめたで…蒸したので。ウメーコト…おいしい事。タマガッチシモウタ…吃驚してしまった。
- 31P どこの家でも。トギ…友達仲間。イレタデ…火力で煎る。オオキニ…ありがとう。よばりゅうか…頂きましょう。ハリコムナァ…精出しますね。ナンノ…とんでもない。アンマリ…あまりは。ソゲンコツエー…そんな話を。チットデン…少しでもと。チッタ…少しは。メズラシュッタ…本当に珍しくなって。シミチーチ…染みついているので。もろうも…涙腺が刺激されて涙が。

食べ物人間には 格別な関わりがあるもん。食べる事、寝る事 欲もそりーかたると ちとづつ心が貧しくなるが そげはナリ トウネエモン。皆んなが心は豊かに ありてーもんじゃが。





あそび

こ

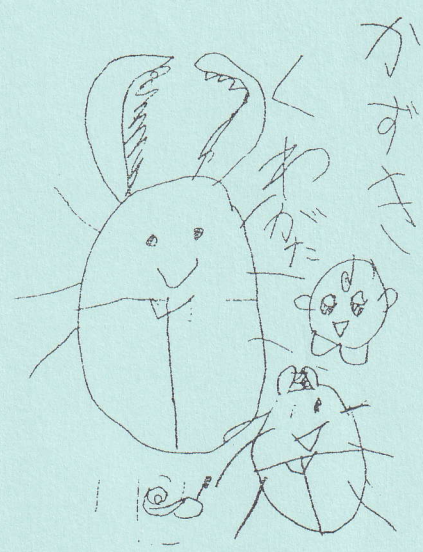
と

も

ん

世

界



農家の子どもは家の 手伝いが当たり前でんあり オオカタン家で 決まってもいた。寒い頃の仕事は 子どもどうして 薪とりに 近くの山に行くことが多い。学校から帰ってきたら 時間がある時にゃ 上級生が誘って皆んなで 行くから賑やかなもの。その薪は 主に風呂沸かしに使うが 上等な薪は竈でも 食べ物作り用にも 使っちゃった。

山ではおもに 枯れて落ちた木切れや 太い枝もあったが 道具はあんまり使わず 手でおったり 足も使って 踏みおるなんかして 50センチから 1メートルぐらいの 長さにしたものを 束ねて縄でくくって 背にかるって帰る。大きい子どもたちは カンネカズラ《弦条の植物》を 取って束ねては 薪を背かるとにする。

年に似合った太さや重さに 出来上がるが 上級生が上手に世話して おおかた同じ時間にゃ できあがるから 引き上げる。手間とるチイサイ子のぶんは 早く出来た子が手伝い 行き帰りの道は 前に 一人上級生が 続いてコンメー順に おしまいも上級生と 並ぶから 途中じ転んだりしたら みんなで加勢して 起こしてやる。

怪我せんごつ 皆んなが気をつけち 帰るきメッタニそげな 事はないけど 親たちも 子ども同志で山に 行き来するからそれには 安心しておったごたる。遅く学校から帰ったり 又 雨やら暑い時やら 病気の時には 行かないこと。子ども同志で働くことで 知恵もつくし 皆んなが助けあうので 努力もするようになり 親たちも安心して 帰りを待っているごたる。

子どもの取って帰った そん薪は使うのが 勿体ないといつまでも 積んでいる家も 見受けられた。

山から取って帰った 薪は風呂沸かしに使うが 風呂沸かしも年寄りの役目じゃが 子どもも そん一人。自分たちが 取って帰った薪も 大きな役割を果たすから 沸かすのも楽しみな仕事になる。年寄りと腰かけて いろいろ 今日あった話が そこで賑やかに笑い声も 交えて続いている。

水の不便な場所の家は 飲み水は担いで運ぶ。その役も上級生は 受け持っている。大きな桶やら バケツなんかが 使われち清水が湧いて集まった 場所から運んでくる。井戸が近いと手でさげる そんな運び方もある。が天秤式に担ぎ棒で 前後ろの2つが一回に運べるので それに重さも平均にかかるから 力仕事に自信もつくごたる。

冬の季節にゃ 麦踏みもある。春先に麦の芽が少しのぶと 根をしっかりと広げさせる ためにふみつけて 寒さに葉先が あまり痛まぬように 踏むと根ははり 成長がしっかりする。頬かぶりして 小刻みに歩幅をとって 踏んでゆくので 寒い時の仕事には こげなん いい仕事でんある。

ばあちゃんが 『甘酒わいたき いっぱくせんな』と つば先からオラビヨル。『はい』 元気のいい返事に 『ちったダッタゴタル声じゃな』 年寄りはまだもう すぐ解るもんじ 元気と 言うてもまだ子ども すたこら 帰って来た。頬かぶりがあるき 頬べたいいが 手先足先は やっぱ冷たかったじゃろう。

春先ん遠足は 大概は 遠方ん集落に 近い所が多い。ついでになるけど 目的地についたら 先生はチョコット 生徒ん家に行き 家庭訪問も済ませる。生徒たちは 手作りん弁当食べち 芽ぶいた ワラビ ゼンマイ なんか山菜取りも 自然に親しむ 絶好ん機会にもなる。周期はくり返すが その年としに子どもも 交替しながら 成長しちいくごたる。



子どもん楽しい行事

農村にゃ四季おりおりん 行事があるけど 中にゃ子どもの行事も あるごたる。それも古い昔かる 伝わったもんが 多くて そん素朴さにゃ 微笑ましい仕種が あったり意味が ゆう解らん そげな 行事も伝えられち 守られながら 毎年くり返されよる。じゃが自然の中じ まじめにされよる 行事には昔ん 人たちが 苦労したかる できて守ってきた そげなもんも 多いごたる。

正月にゃ氏神様に お参りするけど 2日には 決まって書き初めしち 貼ってあったもん。上手とかじゃノウジ 書いて供える そん 気持ち心が 大事ち思われる。大人は正月飾り餅 しめ縄 なんてんなど 松竹梅とともに 花筒にいれてある。年明けには 揃ってお参り 今年一年の健康 幸運を祈るものです。

3月や4月には お接待回りがあります。子どもも一緒に回り 新しい山菜が入った 混ぜご飯、押しすしにした物 なんか配られて貰うのも 楽しい行事。おおもとは 弘法大師と言う 偉いお坊さんの教えに従った どんな人たちにも 平等に食べ物に分けて 暮らせる世の中にと その教えを守り お参りした人たちにお接待するものです。

盆の月にもあって この頃は『ヤセウマ』の お接待です。ヤセウマは 盆に帰った仏様が 帰りの土産を 縛る紐に使い ヤセウマが強くて切れないからの いわれから供えるもの。と言われますので そんな お接待が多いようです。しかし暑い時期で 食べ物はいたみやすいので 早めに食べる。乾燥させるとよいが 人間の社会は 早くいただいて 食べるのがよいようです。

そして盆踊りが 初盆の家などであって みなさんが浴衣姿で 亡くなった人たちを 供養します。踊りは心も和みます。

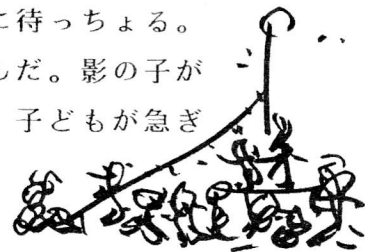
送り火の行事も 盆の16日にあるけど 柱松する行事もあるごたる。地区のひとたちが一緒に 貧富の差のないように始まった。そげな思いやりが 昔かる伝わり 世話をする人たちが 面倒見る所にゃ 毎年されちよるごたる。盆に帰った仏さまも みんなにお接待されち あの世にお帰りしち 又故郷ん みんなと家族を 守ってくれます。

こげな素朴な行事にゃ 子どもの役割が多いもの。子どもが入ると賑やか 着飾った色の美しさ それに引かれて お年寄りも集まる。夏の一番暑い時期 じゃが夜風に吹かれ 日ごろの野良仕事姿たぁ ちがう若い人たちが 一生懸命に 世話をしたり 踊ったりする方に 活気が満ちちよるき 心も浮き浮きするもんじゃつた。

櫓の上の声自慢が 口説きん歌を唄い おはやしがはいると 夜空にゃ 星も輝いて 故郷ん夜はしずかに 更けてゆくのは 本当に 幸せなことでしょう。子どもたちも そんな仲間になり ヤンガチ 大人になっち 世話をすることに。いつまでも笑顔ん 故郷であってほしい もんです。

秋ん深まりになると 15夜の晩に『名月様』 手みいに供えた今年の 実りん芋やくり 柿 ダンゴが 灯明に写しだされちよる。と 足音がする 子どもが中腰になって そっと そのお飾りに 近寄った。心の中じ『頂きます』 そっと差し出した手で 舟に入った供え物を そつくりいただいた。

その家のおじさんが 影で見ておったが ほっと安心。『けがせんごつ帰りよえ』 次の子どもが もう影に待ちよる。ハゲシュ舟に入れ替えると 急いで家にひっこんだ。影の子が 抜き足さし足じ 近寄った。月が雲間に入った。子どもが急ぎ近寄った。子どもんドラマは まだ続くけど。



子どもの行事のひろがり

稲の取り入れが 済んだら子どもにゃ 楽しい『亥の子』が待ちよる。家家を『藁打ち槌』じ 叩いちまわり 新米でついた餅がもらえる。素朴な行事でん そんな意味にゃいろいろあるが こころじゃ豊作に感謝し 土の中にオル虫たちに いたずらせんごつ叩き知らせて 追い払う。その時に使った槌は 果物の木にかけると 病虫害除けに 家の屋根に乗せると 家内が無病息災で 幸せに暮らせると言う。

奥深く考えちみると どんなに貧しい家でも この夜は平等に餅を貰って 楽しく食べれる思いやりの お接待まつりでんある。田の神様もそれを見て ほっと安心して又 来年も豊作であるごつ 農家の苦労に報いてあげたい そげな思いやりの 気持ちがあるようで チット寒くなった夜じゃが 皆んな元気に槌たたきに 合わち唄う 今夜の亥の子 祝わぬ者は 鬼生め邪生め エートナ エートナ も一つおまけに 祝いましょう……。と賑やかに唄うよう。

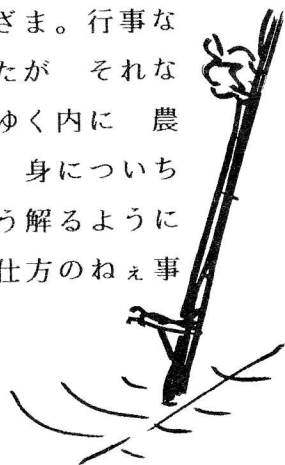
藁打ち槌じ叩くもんじゃき 藁くずが散らばるのを ちゃんと箒やり取りを持つ 上級生が美しくはわいて お餅を受取り皆んなに わけわけしよる。子守しながらん 子どもにゃ背中ん子にもあげると 取り粉を肩ん回りに 散らかしながら おいしそうにたべちよるんも 微笑ましい。

12月に入ると『雪足づくり』が じいさんたちに習って 始まるが青竹をうまい具合に 切りそろえち踏み台は 桐の木が足当たりがいいき ゆう使われよった。湿したカズラじ 締めつけたらもう出来上がり。ヒョイト飛び乗ると コトコト 歩く調子はもう出来上がったよう。見よう見まねじ作る 雪足も上手になっち こん冬は雪合戦が 楽しみな夢が見られそうじゃな。子どもん世界にゃ もう一足早う正月が 来たごたる 風は冷とうなったけんど。心は気持ちは暖かいごたる。

※※※ 方言説明 ※※※

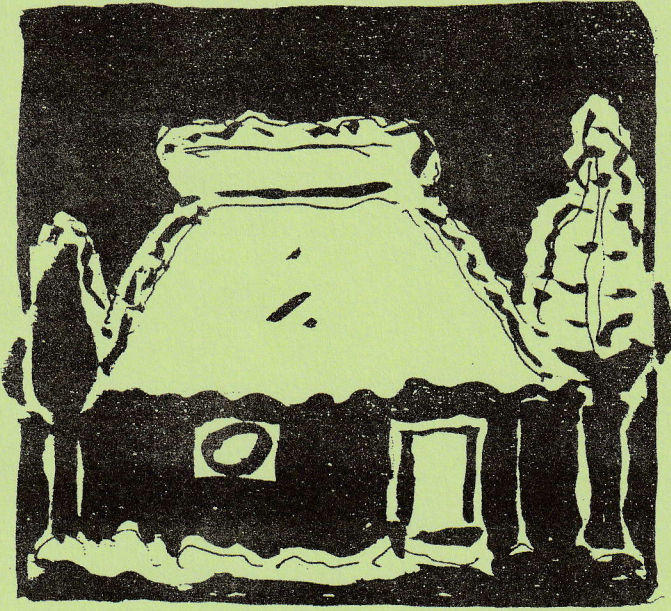
- 3 3 P オオカタ…ほぼみんな。手間どる…手数がかかる。コンメー…ちいさい。おしまい…最後。せんごつ…しないように。ごたる…ようです。やら…など。
- 3 4 P そん…その。桶…木でつくって竹の輪でしめた水などを入れる生活道具。麦ふみ…麦の芽が出た頃に踏んで根が丈夫に張るようにする仕事。頬かぶり…手拭いタオルで頬を包む知恵。こげなん…このような。でんある…でもあります。いっぶくせんな…一休みしませんか。つぼさき…農家の家の前の広場。オラビヨル…叫んでいる。ちったダッタごたる…少しはつかれたような。すたこら…軽快に。じゃろう…でしょう。チョコット…ほんの少し。
- 3 5 P ゆう解らんが…よく解らないけれど。そげな…そんな。じゃが…ですが。そげなもんも…そんなものも。ノウジ…なくて。おおもとは…もともとは。ヤセウマ…小麦粉を練り伸ばして茹で黄粉をまぶした食べ物。
- 3 6 P こげな…こんな。じやつた…でした。ヤンガチ…やがて。手みい…竹などで作った手で選別する農具。帰りよえ…帰りなさいよ。※名月の晩は盗んでもよいとされていた。
- 3 7 P 藁打ち槌…藁で作った槌で地面を叩く。チット…少し。エートナ…よいとな よいですか。雪足…竹馬。

子どもの世界にはこのほかにも 子守、炊事の手伝い、洗たく、繕い物の加勢、なんかがあったが 家庭によってさまざま。行事なんかは一緒にしていた。遊びは多少に男女は 別だったが それなりの風習に 幼いときかる慣れ親しむ事じ 成長してゆく内に 農作業なんか一緒に 又別々な仕事が 得意分野としち 身についち 行くんも自然が 皆んなの共同体じゃった それがゆう解るようになる。そげな中に貧富の差は 家庭ごとにあるのも 仕方のねえ事じゃが。時代とともに互に入り代わりながら……。



五助の

東洋及諸國の歌謡



△△△ 包む文化 △△△

人間の生活にゃ あれこれ動作が多いが ここじゃ包むこちいこだわっち見ましよう。コボレンゴツ 見られとうねえ 陽にサラシトウネエ。そん人ん思い 願い 考えがそっとそきー 包みこまるる 生活ん知恵かん知れん。またそれが そん人ん奥ゆかしさも 味わせちもくるる。

人間が生まれたら 産湯じ美しゅ 洗うち産着を着するんも包む所作になるじゃろう。包むもの無かった そげな時にゃ 竹ん皮、さといもん葉っぱ、カンカラ、カシワ、藁、なんかが使われよったが まさに咄嗟の機転かる 生活ん知恵としち 広がりそれがもう 当たり前ん道具にもなった。

やんがちそげなもんも だんだんと新しいものに 変わるこちななるが そげな過去ん仄かな 夢やらロマンが 染みち一た物にゃ今でん 愛着もあっち 平気じ使うてん 違和感もねえもんじゃき 不思議な関わりでんある。今でん餅ん座布団ち 言うち夏どま カンカラん葉は 重宝な餅ん座布団になる。

紙が出回るごちなり 新聞紙、葉袋、紙袋、なんかが 風呂敷とともに 広がっち 食べ物でん新聞紙じ 包むと時にゃ 新聞のインクが移っちよる。けんどそれが なんか無性に親しきになるんも 生活が心豊かじあった そげな証かん知れん。風呂敷はそげな中でん 大きな役割を 果たしよったごたる。

腰巻、イモジ、オコシ、急に言われてん 何んことかちタマガル娘。無理もねえわな 腰巻かる ズロース そしちショーツ 腰にそっと巻いち 腰を冷やさんごつする 大事な下着じゃが 東京んデパート火災じ 店員が忙しく飛び降りたが そん時に裾が開いち もう大事じゃつたそうなる。

隠す、温かくする、大事にする、そげな気持ちがあるだけに
まず 好奇心より『大丈夫か』と 心配する事んほうが 先た
つんも人情じゃろう。片や ヘコ、ふんどし、猿股、と流れた
場合でんやっぱ 元を掘り下ぐると 大事なもんはち 注目す
る『包みの文化』。

さてと顔を包むのん 大事な場所じゃき 気になるもんじゃ
が 寒空でんいつも 痺るるごたってん 大丈夫じゃが やっ
ぱチットデン 寒さをよくるにゃ 頬かぶりが一番じ それ
がまたユウ似合うしも多い。麦踏みどま これがゆう似合い絵に
もなる 冬ん風物詩でんある。

夏どま汗が流るりゃ すぐにも拭けるる。手を拭くにしてん
物う 貰った時にでん すぐこれが役立つ。怪我しゅうもんな
ら すぐん処置じ ヒッククツチョコク。心配なら フツ揉んじ
べたっと 貼った上にシャント クビルともう外来ん 応急な
処置が出来上がる。

女性が頭にチョコット かぶると色気がある。年頃ん娘が頭
を包み 襟足がチライ 見ゆる姿はもう 魅きつけられそう。
上品さが出ち いつでん嫁姿に 連想さるるき 不思議でんあ
る。母親譲りな横顔は やんがちそげな 喜びが近うなるんか
胸ん膨らみが目立つ。

そげな姿を包む 隠す そっと感じさする 姿体ん浮き彫り
が 包んじょりゃなおさら 美しくも感じられ 眺められる
年頃人生でんあろう。母親ん乳を口に 含んだおさな子が 顔
をあげち見上げた 母が横向きになった 手拭いが なでか妙
に女らしさを 想像させるのも 包む文化の輝きかん 知れな
い。包む生活文化にゃ 長年培った人間の知恵も 垣間見られ
るごたる。



90歳になろうかち 言うゴタル じいさんが昔ん話しゅ 思いで一ち近所ん 子どもども集めち話しよる。学校じ身体検査があった。蚤ん食うた跡が シラミがおったんじゃろうか 掻いた跡もある子。そげな中でん トラホームがケックシャ多いかった。衛生思想もまあまあ 低いし頓着もねえき 検査ん時に言われち 病院に行きよった。

鼻たれん子もオリャ。皮膚に吹きでもんが ある子も元気あ いいきチットグレ 痒うでん ソッココ掻きゃ 治まるごたるんも 野性的な育ちかとう しよるきチットグレん 病気ゃ病気んうちにゃ 入っちょらんごたる。怪我したんか フツ揉んじそん汁じゆうなる。

そうじゃ稲がそろそろ 穂ばらみになった。害虫が出るき田に油う撒かにゃち 竹筒ん下んほうに穴う あげちコツコツ叩くとそん 穴かる石油が出る仕掛け。田の中う振っち回り すぐ長え竹さおじ稲を揺らすと 害虫が落ちてち 油ん中じワヤワヤしよる。そしちやんがち 天国に行くごたる。

ツバクロが飛び回るんも 百姓に取っちゃいい味方 今年も又頼んだきな。そんかわり軒端にゃ 巣をかけちくれなあ。ツバメが来ると縁起がいいち ゆう言うけんど それだけ火災の心配がねえ そげな所い巣を カクルキそこかる 来たんかん知れん。長えつきあいんツバメ 昔しゃツバクロとん 言いよったがたしかに ツバも黒いきなえ。

子どもが学校かる帰る時あ 『おいさん、おばさん』ち 言うち帰ると『お一帰ったな』 『ゆう勉強したか』ち 挨拶が反ちくる。今じ言う『ただ今』『今帰りました』と 同じごたるん挨拶じゃつた。子どもん顔じ 親も家族もわかるごつ 知り尽くした環境でんあった。

『諺かる社会も人も解るもん』

そん人う知るにゃ そん友達う見よち 昔かる言うが そん事
あもう推して知るべしじゃ。つき合う友達が だれかるも『やっ
ぱ』ち 言わるるようなシャ どき出してん心配がねえ。『悪人
の勝利は ほんの一時んこと』ち 言うのがゆう解る。偉ぶるが
自分じ自分を 褒めた所じ知れたもん。

災いは口から出るが 病は口かる入るち 言う似たような格言
じゃが まさに真さかさまん 人ん道知るべ。おしゃべりは軽率
に 知ったかぶりするが それが広がると もう大事になっちょ
る。まさに暴力まがいにもなる。人ん口にゃ戸は 建てられんち
言う まさに厄介な言葉でんある。使いようじゃ。

病は口かる入るのも 風邪は万病ん元とか 言うが油断した
そん瞬間に風邪は入り 忘れた頃に発熱する。寝込みどますりゃ
もう 日ごろ元気さに 油断しち不用心の 潜伏した病気が頭を
もちあぐる。ちょっと油断したき 思わん大事う作りたつる。心
じゃ元気ち思うてん 人間な弱い動物を 忘れんごつ。

病気は体ん故障じゃのうじ 心ん故障じやあるめ一か。心がけ
がシャントしちよりゃ 風邪の用心 早めん葉 ちょこっと休む
ことじ すぐゆうなる結末。『しよわねえ』は 『しよわ一ある
こち』ん 始まりになっちゃ 様にゃなるめ一し おおけんこつ
言うてん 病気が長びけは 苦もみる錢もいる 葉りも苦えもん
。

愉快は努力に 生命は希望に 幸福は心貧しきにあり 感謝は
物の貧しさにあると 言うような考え 思いは幸せに近づく 選
手のスタートラインでんある。真心はどけな 宝物よりも美しい
よう。



不思議な夢でも

ダマシ目が覚めたもんじゃき あんげこんげ見まえ一ち なし
あげな夢う見たんじゃろうか 不思議じコタエンガ 夢じゃもん
じ誰う怒る訳にも イカンモンジ 考えくうじシモウタ。そげな
こた一ゆうあるんで 人に話したところ そげな返事が戻った。
まっさら若え娘ん 真っ白い足う見よると シカトシモネエ 夢
じゃつたき 口水が垂るるごたる。

自分がん足が外仕事んじょ するもんじゃき ジュジュ黒うな
っちよる。『そげ一白いんがよかりゃ いっとき病氣どましち』
『そげすりゃ 色が白うなるんな』『そりゃソウトン 陽にあた
らんじょきゃ 色白になるど』 なんか白うなっち みとうなっ
たき 偽病氣になっち 10日はず寝こんだ。

『なにえ あん元気もんがえ 考えられんなあ』 だれも信用
せんじゃつたが そげ言やこん頃あ メッソ見らんごたる。まあ
たまにゃ 気休めもよかろうき。じゃがそげ一人間な 調子ゆう
はねえもんじ 足がつりで一た。ちよいと用足し行くに ビッコ
引きよる。

それが癖になっちもう ひずなっただごたる。『何えそげ一悪い
んな 足がたたんえ』『じゃで え一とおけるるごたる 食わん
のじゃねえ』『もう起けたてんじ 食えれんらしい』 話しゃも
う広がっち 『死にそうらしい』に まじ聞かれるらしい。人間
の口ゃ 便利んかわり ロクシュモネエ 悪口になっちよるき
いつんなかめ一か 『死んだらしいで』

そうこうしよったが ちった音沙汰のうなると そげな噂話も
火が消えたごつ 聞かれんごつなっただ。言うしもおらんし そげ
な暇ものうなっち いつんなかめ一か 『死んだんと』に なっ
た。

なんとか足腰もユウナッチ 久しぶりに起きたが チッタよたよたも シアントなったごたる。『やっぱサカシインガイイ』ウマソウニ 朝飯う食べたら 元気も出たき野仕事に出た じゃが寝ちよつた間に 色白になっちよる。『やんなオトロシュ 色白になったのう』『そんかえ』 恥ずかしいごたるぬ えーところえち 早々に帰った。

やっぱ色ん白いな似合わんわい 人並みが一番良い。人があんまり側に 寄っちくれん寂しさ。あん夢は何じゃつたかんのう。『あんたオトロシュ 顔色悪いなあ どこか悪いんな』聞かれち 『こりゃまあ 色ん白いんも ヤエコチャネエワ』 早う黒になりて一のう。

黒でん逞しい男 それが白過ぎてん いいもんじゃねえ。女性ん白は百難隠すち言うごつ 得もするが それぞれん立場人柄にも 寄るんじゃなかるうか 欲張りも禁物じゃな。

※※※ 方言説明 ※※※

39 P コボレンゴツ…落とさないよう。それがもう…いつの間にか。ごち…ごとに。けんど…けれど。

40 P やっぱ…やはり。チットデン…少しでも。ヒッククッチ…束ねて。シアント…しっかりと。クビル…束ねる。

41 P ゴタル…ヨウデス。けっくしゃ…結構。ふつ…よもぎ。ワヤワヤ…やわらしい。

42 P シャ…人は。シアント…しっかりと。しよわねえ…大丈夫。

43 P だまし…急に。イカクモンジャ…うまく行かないが。シカトシモネエ…つまらぬ話で。ジュジュクロ…真っ黒で。ソウトン…そうです。じゃで…ですよ。ロクシュモネエ…たいしたことない。なかめに…いつの間にか。



野津原方言單語
ムコガリ



と トセンド……………通らせない、通るのを拒む、通るのを嫌う。
トセンボ……………通らせない嫌味、通るのを邪魔する行為。
トゼンゴタリヤ……………閉じないようなら、閉じるのを嫌うので。
トゼコム……………閉じ込めてしまう、閉じ込めて困らせる。
トゼヨセン……………閉じるのに時間がない、綴じる時間がなくて。
トゼチコス……………綴じてこそ仕上がりになる、綴じなければ。
トゼンワリーカ……………戸でも悪いのですか、戸がわるければ。
トゼルリヤ……………綴じられるようなら、閉じられるようなら。
トゼンシミー……………戸でも閉めて、戸を閉めておくと、戸締まり。
トゼソコノーチ……………閉じないままに、綴じなくて、綴じる失敗。

トソデン……………お屠蘇でも、お屠蘇でお祝して。
トソヌージ……………お屠蘇でも飲んで、お屠蘇のお祝でもどうぞ。
トゾツマリヤ……………結局はこんな事に、早い話がこんな結果に。
ドソット……………大きな物音で、吃驚するような音で、予想外の。
ドソツタイワン……………そんな音はしないが、予想外の音でもない。
ドソット……………変な音がするもので、異常な音に吃驚する。
ドソカ……………土足ではいけないよ、履物は脱いで、スリッパに。
ドタツトコケチ……………びっくのするような転び方、大きな音で。
ドタバタシチ……………慌てて大きな音まで、大きな音に吃驚。
ドダイワキャガル……………予想以上に賑やか、騒ぎすぎて吃驚。

トタタキャ……………戸を叩いてうるさい、戸が壊れる、解ったから。
トタンブキュ……………亜鉛塗鉄板葺き、雨にはすぐ解る、雨音が。
トダナグチ……………戸棚からすぐ口に運ぶ、戸棚ん隅でつまみ食い。
トダエチオル……………音信普通に、音沙汰なし、まったく便りなし。
ドタクルーチ……………慌てまくった表情、急に言われて慌てる。
トダキャ……………戸だけは丈夫に、戸が命も守る、戸が病人運びに。
トダノ……………戸棚の中に、戸棚が隠れ場所、戸棚は重宝。
トダノミチミヨ……………戸棚が隠し場所、戸棚が金庫に、戸棚は。
トダノセンギシヨル……………戸棚はあるかな、戸棚がくせ者。

と トヂチクリー……閉じてください、綴じてください、閉じて。
ドチシテン…どちになっても、どうしても、いずれにしても。
トチメンポウ…慌てて面食らう、慌てふためく、見境つかず。
トチレモネエ…大したこともない、あきれた様で、予想外な。
ドチミチ……どちにしても、いずれになっても、やがては。
ドチャミチ……どうなっても、いずれは解りそう、やがては。
トチツ Chol…慌ててしまった、見境もつかない、方向音痴。
トチラケーチ…荒らしたままに、乱れたままの、乱雑な有様。
ドチャミチ…いずれにしても、やがては解る、仕方ないかな。
トッピーシモネエ…とんてせもない有様、予想外の、見違え。

ドッチシテン…いずれにしても、やがては解明、何とかなる。
ドット……急に起きた、予想外な事が、思わぬ事態が。
ドッチミチ……いずれにしても、予想外な展開、やがては。
ドットンセニャ……急がないと、早く解決を、早急に解決を。
トットツマラン…全くだめな、予想外な結果で、だめかな。
トッテン……とても予想外、取ったとしても、取り損かも。
トッピーチミヨ……少し痛めては、言い聞かせは無理なよう。
ドットントベ…早く飛びなさい、急いで走って、後が来るよ。
トッパミズ……冗談話が、笑い話が続く、旨く受けないと。
ドッカル……どこからか、いずれの方向か、誰からか。

トットシレン……少しも知らない、全く予期しない、解らぬ。
トットタン……お父さん、父親、おやじ、おとうさん。
トッパイ……豆腐、お豆腐、大豆で作った柔らかな食材。
トット……全くの、予想外な、予期せぬ事態、がっかりする。
トッパ……艶話か過ぎる、色話巧みに、少し冗談が過ぎる。
トットン……全くの、予想外な、信じられない、覆した。
トッピーヨシモ……予想外な、信じられない、ヒンシュクを。
トットツカマエチ…早急に捕まえて、早期捕縛を、猶予ならん。
ドットン……急いで、早く早く、忙しい動きに、急かせる。

と トテモジャネエ……とても大変、どうしようもない、無理か。
ドテッパロウ……横腹をいじめてやろう、ひどい悪態を見せ。
トテンカナワン……叶わない、とうてい無理な、手ごわい。
ドテンハナ……土手の端先、土手の先端の部分、土手の片隅。
ドテワキン……土手の脇の部分、土手の端の方、土手の周辺。
トデンアケニャ……戸でもあけて、戸をあけて空気を。
ドテブシン…土手補修作業、共同で土手の修理を、土手整備。
トテツモネエ…とんでもない、とても予想もしない、予想外。
ドドッチャレ…子どもをあやして、子守の秘策をして寝せる。
トドンツマリャ…結局は、いずれはこんな事で、最終的にわ。

トドカニャ……届かないと、痒い所に手が、肝心な場所に。
ドドラニャ……子どもをあやす技法、子守上手なあやしかた。
トドコウカ……届くでしょうか、意味がわかるだろうか。
トドキャイイガ……届けばよいが、届いたか確認を、届くか。
トドイチョル…届いています、届いたようです、届きました。
トドキモウサン……届けないので、も少しで届く予定ですが。
ドナリクウジ……大声で叫びまわる、乱暴な大声で叫んで。
トナリャ…隣はなにびとか、隣は何をする人か、さっぱりな。
トナリヤショワネエ……それは多分大丈夫、不安だが大丈夫。
トナリュミヨ……隣を見習って、隣の真似好き、人見て直す。

ドナリサゲーチ……大声で叫びまわる、騒がしい性格の。
トナリンムギメシ…よそのものは美しく見える、見かけ倒し。
ドナルモイイガ…大声もいいが、落ち着きがないと、損する。
ドナルリャ……大声が出れば元気、ほどほどが得では。
ドナッチイイカ……大声がいいのかどうか、時によりけり。
ドナリャオジイ……大声は怖い、大声にも多種多様な。
ドナロウト……大声だそうと勝手、勝手にしておけば。
ドナッテンイイ…大声出しても人はなびかぬ、指導力の問題。
ドナッチョキヤ……大声で統制がとれれば、反対になる事も。

と ドモナラン…どうにもなりません、仕方ないので、無理で。
ドニデンナル…どうにでもなりますよ、必要次第に、了解。
トニモカクニモ…いろいろあっても、やはり解決、円満打開。
ドニカ…なんとかなりました、円満に解決して、さすがに。
トニカクハヨ…急いでこそ、早いが得意で、早い勝ち。
ドニカナランカ…どうにかなりませんか、助かるのに。
トニハッチョケ…戸に張って解るように、戸がよく見える。
ドニモ…どうしても、どんなに考えても、難しい問題。
トニカクニン…いろいろ考えたものの、なんとかせねば。
トニカニン…とにかく何とかしてほしい、最後の知恵を。

ドヌスト…悪態の盗人、最低の泥棒、話にならぬ悪坊。
ドヌケチ…ずばぬけた悪坊、人一倍でている、頭でっかちな。
ドネベ…ねたった性格、箸にも銚子にも靡かない。
ドネリンカベ…土で練って作った壁、土塀の定型的な姿。
ドネリュシヨ…土練りして畦を、土練りして壁づくりを。
ドネリンヘイ…土練りして作った土塀、格調高い土塀。
トノサンキドリ…殿様と自惚れして、見下げた風格好み。
トノンツマリヤ…結局は実もない、理屈が解らぬままに。
ドノミチ…どちにしても、結局ははっきりせぬままに。
ドノクレクルカ…どれくらい来ますか、何人が来るのか。

ドノクレーカ…どのくらいでしょうか、果たしてどの程度の。
トノサモ…殿様の、殿様には少し距離が、殿様真似は無理。
トノデン…殿様でも、殿様の代わりは無理、殿様も欠点が。
ドハツミュ…土を積み上げて固める、土手を築き固める。
トハズンカオ…冗談が過ぎるよ、冗談で笑わせる。
トバンド…飛ばないので、飛んでも無理で、飛ばぬほうか。
トバレン…飛ばれないから、飛ぶのは無理だから、飛ばない。
トハダイワンコ…冗談はいわない、恥をかくような冗談を。
トバン…黒板、教室にある大きな授業用黒板、飛ばない。



と トバシー……飛ばせなさい、飛ぶ仲間に、飛ばせてみたら。
トバンゴタラ…飛ばないのなら、飛ばないです。飛ばないの。
トハズユーナ……冗談をいわないの、冗談は品位が悪くなる。
トバリユウカ……飛べますか、飛んでもよいですか。
トハダヤイツカル……冗談話はいつから、冗談が傑作だから。
トビヤイコ……飛ぶ競争する、飛んで競争しては、飛び比べ。
トビキリン……特別な、上等な物だから、高級品を集めた。
ドビクウジスム……飛び込んで潜る、飛び込み潜りと。
トビーチ……灯して、灯した明かりは幻想的、明かりは和む。
トビソコナウ……飛ぶのに失敗して、飛び込みは素人だから。

トビヨル…飛んでいる、飛び比べかも、走っている、リレー。
トビハジ…飛んで弾んで、飛びはねて喜ぶ、歓喜な動き。
トビヤカ…飛ぶ役になった、飛ぶのもひと苦勞、飛んで責任。
トビクラゴ……走り比べ、徒競走、飛んで距離を、瞬発大事。
ドビンデン…土瓶一役する、土瓶の料理は格別、土瓶に一輪。
トビクウジ……飛び込んで、中に入って、仲裁のタイミング。
トビヤイコ……走り比べ、飛びくらべ、徒競走、走り高跳び。
トブトブユウテン……飛ぶと言っても、走るだけで、飛んだ。
トブフリヤ……飛ぶ素振りも一芸、飛んだ真似が絵になる。
トブゴタル……飛ぶようなら、飛ぶことになった、走るよう。

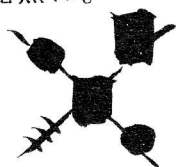
トブゴタリヤ…飛ぶようなら、走るようなら、跳ね回るなら。
トブンカ…飛びますか、走りますか、跳ねますか、画期的な。
トブナラ…飛ぶのなら、走るのなら、快速でかたずけるなら。
ドブロク……原始的な手法で作った酒、簡単な酒造方法製品。
トブント……飛ぶようです、走るらしい、海外に逃げる。
ドブサラユ…汚れた溝の清掃、汚水溝の清掃、溝の整備作業。
トブクラネエ…雨戸の格納場所はついていない、雨戸の入場。
トブケンド…飛びますが、走りますが、別の場所変わります。
ドブタ……汚水の多い田んぼ、湿地にある田んぼ、湿田。

トンダ……この地域では『走る』事を『トブ』と方言で言うんですが、ここで『トブ』は前後、相手のその時の話の流れで全く異なる意味になります。同じ『トブと聞いた』場合『飛んで』になったり『走ったり』に変わる意味に拡大します。

この他にも『トンダコトニナリマシテ』と言う場合は『大変な事になりまして』と意味が変わります。又『トンダラシイ』と聞くと『逃げたようで』。『トンダトンダ』の場合は『話しが弾んで盛り上がり、広がって』に変わります。47P⇒から50Pまでに入ったトンダ、トブ、トビ、トベ、トボウなんかは以上のように拡大する事が多いのです。

と ドブゼンノムカ……手作りの酒でも飲むか、素人酒飲むか。
トベンナセチナゲー……飛びきらんのは切い、走れぬ悔しさ。
トベルルカ……飛べれますか、走れますか、走ってくれない。
トベレタカ……飛べましたか、走れましたか、走れば元気。
トベタド……飛べましたよ、走れたので、走りは得意になる。
トベリュウトン……飛べますよ、走れますから、飛ぶは得意。
トベタンナラ……走れたのなら、飛べたら元気な証。
トベテン……走れても、飛べたとしても、用心して油断禁物。
トベ……走りなさい、飛びなさい、徒競走の選手になって。
トベレン……走れないので、飛ぶのは苦手だから、やめます。

ドボドボスル……不安定、緩やかな状態、ぬかるみに入って。
トボジハカル……升に入れ表面を均等に、性格に斗升で計る。
トボカキュ……升に入れ平均にする斗棒で平らに、性格無比。
トボシチ……灯して、灯明で照らす、神仏の前に明かりを。
トボリュカ……灯れるでしょうか、灯りがつくだろうか。
トボセ……灯して、灯してください。灯はお灯りなのです。
トボードチ……走るつもり、飛ぶ準備ができて、出発点に。



と トボーヤ……走りましょう、飛びますか、競争しますしょう。
トボレタ……灯れたので、やっと灯いたので、灯きましたよ。
トボシチョケ……灯しておきませい、灯してお参りしましょう。
トマッタンカ………止まったのですか、泊まりましたか。
トマランカ………止まれ、泊まりなさい、泊まったらどうです。
トマジャキ………休みにします、休みにするので、休憩。
トマド………休みますので、一休みするから先に。
トマチュウナラ………休みと言うなら先に、勝手に休むなら。
トマラニャ……泊まらないと、止まらないと罰金を。血止めを。
トマリユウカ………泊まられますか、停車できる、止めたの。

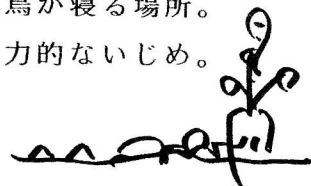
トマッコケ……止まっていなさい、止めて、泊まっていますは。
トマ………休みにしてください、休んでいます、休憩している。
ドマノヤ……土間のですか、土間に入れますか、土間の利用を。
ドマツチ………どもりの症状、言葉使いに難渋、ゆっくり話して。
トマツチヤラン………泊まってあげない、止まらないから。
トマリテーノウ……泊まってみたいが、泊まってもよいですか。
トマツチクセ……泊まりたいくせに我を張る、泊まってもいい。
トミー………止めて、止まりなさい、泊まってここに、泊まる。
トミージ………唐製の選別農器具、穀物の選別農機具。
トミーマジ………唐製の穀物選別器具利用して、多角経営。

トミーナラ……唐製農機具利用で高度な選別、厳密な選別こそ。
トミー………止めて、唐製選別農機具、農家には必要な選別手段。
トミーチュウニ………止めてください、泊めてほしいが、中止。
トミージカル………泊めてから話を、止めてから定位置まで。
トムリャ………止めたなら、止めて安心する、泊めてやれば。
トムルチ………泊めることで安心する、止める事ができるので。
トムンノカ………止めるのか、泊められるようなら。
トムルゴタリャ………止めるようなら、泊められるのなら。
トムーカ………泊めるか、泊めるのなら決めて、止めたから。

と トムンノ……止めますか、泊めますか、止めてもいいのかな。
トメチョケ……止めておいて、止めたがよいかも、泊めてね。
トメテンイイド……泊めてもよいようです、泊められるから。
トメチョキヤ……止めておけば大丈夫、泊めてよかった。
トメテントマラン……止めても止まらない、停止が不可能。
トメチャレ……泊めてあげたら、泊めておくと、止める手伝い。
トメチャラン……泊めてあげない、止める加勢はしない。
トメメーチ……止めまいと思うが、泊めないと返事したが。
トメンジョケ……泊めないがよいよう、泊めて問題があると。
トメンデン……泊めなくても他にある、止めなくても自然に。

ドモルキ…言語障害がある、言葉はゆっくりと、相手大事に。
トモイリ…家のトモから入る構造、友達が増えて、いい親友。
トモウチ……と思っていた、そうではと納得、先刻承知して。
トモブタ…器にあった蓋、夫婦茶碗、愛縁奇縁、よく似合う。
トモーケンド……と思っているが、先刻承知して、納得が。
トモチョリヤ……と思っていれば、納得するなら、双方相縁。
トモズレ……友達と連れ合う、みんなで出かける、気が合う。
トモチョルガ……そう思っているが、納得しているが。
トモウテン……そうしてみたものの、少し不安もあるが。
ドモナランキ……どうにもならぬ、少し不安要素も。

トヤマン……富山の薬屋、富山の皆さん、定期的な行商に。
トヤデン……鶏小屋でも、鳥小屋であっても、衛生管理を。
トヤニヤ……鳥小屋には、用心しないと荒らされる心配。
ドヤシチ…無謀に叩いて、荒々しく叩いたり、激しい仕打ち。
ドヤサレタ……暴力的に叩かれて、激しい叩きようで。
ドヤシタンカ…激しく叩いたの、酷い仕打ちは怪我をさせる。
ドヤシタカ……叩いたの、相手は大丈夫なのか。暴力は悪い。
トヤ…鳥小屋、鳥類を放し飼いしてある小屋、鳥が寝る場所。
ドヤス……叩く行為、無謀に叩く悪質な、暴力的ないじめ。



と トユチコ……あっちこっちの、周辺いったいの、広い区域の。
トユーイケ………遠くから行かねば、近くはいつでん。
トユカリヤ………遠いからこそ、思わぬ収穫は遠方にある。
トユウカル………遠くから思わぬものが、遠方ににこそ実り。
ドユーデン……土用でも精出せば、人の休むときこそ儲け時。
ドユーカシレン………土用にはいると、暑さが本格的に。
ドユー……四季に土用があるが夏は厳しい、区切りの仕事が。
トユーマケ……土用になって撒く物が多い、季節に合わせて。
ドヨボシュ……真夏になって水を落として干す、稲の発育促進。
ドヨーニヘール……土用にはいると、土用の決まり農作業が。

ドヨボシュスル……土用干しをしないと、農家の節目作業が。
ドヨーガイル……土用が欲しい人もありそう、季節に逆せず。
ドヨーモコマル……土用に困る人たちもある、季節には思いが。
トワン………届かない、答えてくれない、相手の反応がない。
トワンケンド………届かないけれど、すねるだけの事は。
トワルリヤ………問われてみれば、問われても身に覚えがない。
トワレチミリヤ………問われて見たとて、思い当たらないので。
トワタテラレン……他人の言うことに困惑、流言楽しみは困る。
トワシミ………戸は閉めておくこと、下手に開けて泥棒が。
トワズユウナ………冗談はほどほどに、信頼関係に気をつけて。

トワゴツ………冗談は程度もの、信頼に関わることさえある。
ドンノツマリヤ………結局は元の意見が、回って来たら元の話。
トンガラシミズ……トーガラシ水を鶏の病気に、効果は時の運。
ドンドンツージョケ………急いで飛んで、走って早く行くこと。
トンギラケーチ………いらだって、ほどほどにしないと。
ドンクレ………どのくらいな事か、程度が問題だから。
トンジイッチ………走って行けば、急ぎには急いで答える。
ドンナモンジャ………どうですうまいだろう、お手のものだよ。
トントンニイケ………祭り見物にゆきなさい、祭りに行けば。

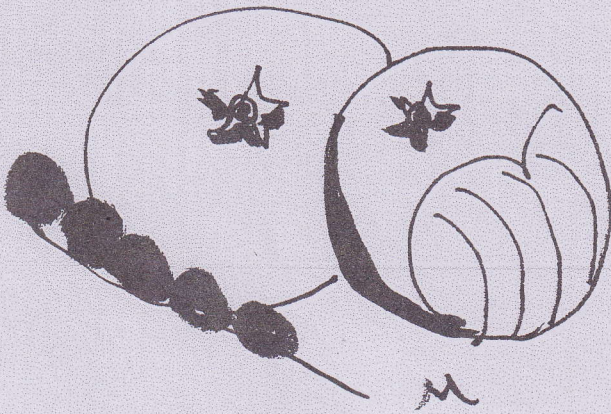
と ドンナコツ…失敗したような、うっかりした失敗、しまった。
ドンコンナラン……どうにもならなくて、大変な事になった。
ドンコンネエ……どうにもならない失態、うっかりした結果が。
ドンコンナルメー……どにもならないでしょう。どうしたら。
ドンゴラサ……やっとうち上がる、足腰が疲れている。
トラルルモン……とるのは上手だから、手先は大丈夫だから。
トランジョキヤ……取らなければいよいよ大事に、先手手法。
トラント……取らないでないと後が大変、早めに取り組む。
トラントシデン……年だけは人並みに、年が邪魔もするので。
トラマエチョケ……捕まえて、逃がしたら大変になるから。

ドラニヤイイニ…取らなければよいのに、取ったから雨漏り。
トランチ……取らないと言うので、とらねば大丈夫だろう。
トラマエタカ……捕まえたか、つかまえたら放さないように。
トランチーチ…捕まえておちないように、しっかり捕まって。
ドリ……あちらの方向に、こっちの路では、来月になるかも。
ドリデン……あちらに行っても、あっちの方向なら。
トリタガル……取るのか好きな性格、とるのも時には。
トリアギュ……取り上げてしまう、取り上げて無事終わった。
トリメシャ……鳥肉の入った飯は、鳥肉なら副食も不要。
トリアウナ……取り合わないが無難、関わりあわないが。

トリアゲチ……とりあげてしまう、収穫が無事にすんで。
トリコ……もちつきに使う米粉、もちつきの手取りに利用。
トリアヤ……鳥小屋、取りを飼育している小屋、養鶏舎。
トリアオーテン……取り合わないが無難、とりあってかえって。
トリコメ……取り込んで格納する、収穫が終わった。
トリアブンナ……分け前を公平に、頂き分は多いがよいが。
トリアゲバアサン…お産婆のおばあさん、農村では多かった。
トリチガヤと……取り違いと大変な事に、よくよく用心して。
トリコトリヨ……子どものいない家が婿と嫁をもらう例。



玉手箱



明治…大正から 昭和初期…戦前 戦中時代

いずれ詳しい資料が出た時い 挿入する事いしち ここじゃ戦前の世の中う覗いち見ろう。まとまった部分だけにしちやります。

生活全般が厳しくなっち戦時色も濃ゆうなった。こん頃かるあつたんが『村八分』 火事と葬式以外は無視すると言う差別でんあつたが 中にゃどっちにも言い分がある事態も。

甘いもんと言えは黒砂糖 ほけー干し柿が使われ 水飴っ作るしもあっち キザラ《三温糖》なんかいいほうじゃつた。麦飯 味噌菜に晩飯ぁダンゴジルが定版。味噌汁に漬け物んがつかきゃーいいほう。葬式ん米飯を楽しむ 大釜んコガレが人気んいいもんじゃつた。

火葬場が柿野にあった。土葬が多かったが時折ん火葬にゃ割木を持参する。オンボウが火葬の世話をしてくれた。土葬は組内んしが穴掘りを受け持つ…イケカキち言うがこの仕事をしたしは 御神酒が出た。葬儀の連絡も組内の仕事じ歩いて提灯持参 受けた家は必ず接待の食事を準備した。

戦争が厳しくなり松根油を取る仕事 木炭《バスなどに利用》焼き 軍需工場などに動員されち農家は 年寄り女子供がほとんど。赤紙…召集令状…で元気者は軍隊に工場に。見送る人も出る人も別れの水杯をする。学童疎開 防空訓練 経済取締りも厳しくなっちやんがち配給制度。衣料切符かる酒なんか祝言か葬式に1升特配だけ。供出もだんだん締め上げられ農家んしも ベイセンキシタ米を食う始末。そん影じけっくしゃオロイーシハ闇取引 タバコ 酒米 なんか町んしの着物と交換しよつた。

横文字使うなち言うにモンペ、ゲートル、ビスケット、アンモニアなんかゆう使いよつた。訳ん解らんまめーにじゃつたんか。

国防献金、国債〈弾丸債券〉 金属供出〈タンスのとりてなど〉
隣組、勤労奉仕…若い人たちは軍需関係工場、生産施設、生産現場
に駆り出された。学童は分散授業で神社、寺などで勉強 上級生は
食料生産奉仕。共同作業 モンペ姿とタスキがけて働く そんな場
面が当然となった。

子供の遊びはそこらそんげにある 材料で工面して遊ぶ中から新
しい知恵も アイデアも浮かんで遊び道具には不自由せんじゃった
。竹 木 草 何でん遊び道具 そりーどこん年寄りでん自分の孫
んごつムドガル。怒ってん親は感謝するような環境じ 自然子供ん
体験、情操教育が身に染みついちくる。人ん痛みが解る人間哲学が
備わっちくる。

アンモニアを水じ溶かしち麦にやると 元氣ゅ取り戻しち青々。
霜柱っおしたくるごつ麦踏みすると ザックザック軽快なりズム。
モミスリが始まった雪がチラチラ 斗棒かけち俵に詰めこんだぬ
四斗ビョーち言うがピラリ担ぐと奥に積み上げた。甘酒とシャクシ
ナン漬け物 トイモも並んだ米すりんツボサキ。年寄りんくわえた
ばこがゆう似合う 顔んしわが長年故郷ん移り変わりう見ちきた。

メグリ棒じアヤシタ大豆が飛びまわる 豆柄は風呂たきん燃料。
農家にゃ無駄なもんなねえき 藁が俵に繩にサンドーラに 筵にも
なりセンチンの潜り戸にも使われた。フセモントコ囲いも出来ち舂
すりんもみ殻が トイモ床に早変わりする。牛馬の飼料になり藁こ
ずみが田んぼじ季節風に震えちよる。

ひびぎれ あかぎれにゃコーヤク焼き込めち言う。痛かろうち思
うなー甘やかしち コボクレ石けんじ洗たくする若嫁ん指先 まっ
赤に染まるぬー見りゃ里の母親 さど辛かろうがこれも宿命か。心
まじゃ貧しゅうならんごつせにゃのや。
みんなひじいんど戦争がありよるきの。



心に残る贈り物

2月14日には巷じゃ『バレンタインデー』 外国から入った風習じゃろうが 乙女の仄かな思いは洋の 東西を問わんじ同じじゃあるめ一か。じゃき人間な悩みがあっち そん悩みが解消さるりゃ こん上なしん喜びに変わるもん。それがもしかすりゃ 迷信かし知れんが思いがあるのも 生きちよる証拠でんある。

故郷に古くからそげな 乙女心を包み込む素朴な 風習ん願い事が継承されてちよる。そりゃー無理強いじゃない ごく自然の心ん現れがそげな 風習になったんでんあろう。人呼んで『惚れ地藏』様ちよばれ 聞いただけでん親しみん 響きがするんも身近いだけに 夢がロマンが仄かに隠れちよる。

切ない思いが告げられないだけに そん仏像を削った粉を 相手にそっとかける。願いが叶い結ばれるち 言う現在社会じゃチット違和感 信じられん話でんあろう。が本当に人間が真剣になりゃ 願いが岩をも貫くの例え。特別ん事んねえかぎり 叶えられるんじゃなかるうか。

人の一心は神や仏に通じるもの 『困った時の神頼み』じゃねえ 真実ん心なら 念じる事じ叶うのでは。そん姿はまさに見かたによっちゃ女性のそれに似ている。じゃない男性んそけじゃ。と意見も多かろうが それこす心の鏡に写す そこに見えることじゃろう。そう思えば頷けるようにも。

ま新しいヨダレカケが 供えかけられているのを見ると 叶う心のお礼がそうさせたのかも。削られた跡を見るにつけても 乙女心んイジラシサが ゆう解る思いに駆られるが。生きている限り悩み苦難は みんなあるだけに 少しでも重荷が卸され 幸せが約束されるなら まさに万歳でもあるが。よかつね。

詳しい記録は不明じゃが もし『道祖神』なら 田の神、家庭円満、安産、縁結び、なんかに通じる。辻の地藏様なら 厄よけ、悪病払い、無病息災、なんかに通じる。以前にあった石仏なら 集落の平和、病気病魔よけ、などに通じる。庚申塚なら 集落の病気、病魔退散、などの願いが 込められているのでは。

60年に一回の祭りをした場合に そのお祭りの願いとして 庚申塚、庚申塔を建てる風習もあるよう。考えようによっちゃ 牛馬の危害防止厄よけに 建てられた事も考えられる。そのようにして建てられたものを 後になって新しく 祀った事も考えてん おかしゅわのうじ 夢ん花がまた開く。

後々になって時の有識者が『こげな意味があるので』ち惚れ地藏仏としちったのかも 知れんけんどあたかも 古くは肥後街道の幹線のすぐネキにあるぬ 考え合わせると 多くの人たちにも参ってほしい そげな願いも隠されているのじゃ なかろうか。お参りの多いのも ま新しいヨダレカケが 取り替えられちよるんに 頭がさがる思いもします。

神にでも仏にしても お参りの相手があっちこす そんな尊厳も解るだけに古い時代に 多くの人たちとん心ん結びつきも あったん じゃなかろうか。それらが先人に継承されち いつんなかめ一か 親しみ易い『惚れ地藏』ち 呼ばれるごつなつたのん やっぱ心が きっと結びつく そげな古きよき時代ん 風習じあつたごたる。

響きがいい『惚れ地藏様』きっと 長い年月ん流れん中じ 多くん人たちん心んより所 叶えてもらった乙女の 気持ちが感謝の印に残す 目にこす見えんでん 神と仏と人間が一体となっていた そげな時代が走馬灯んごつ 浮かび上がる故郷ん 夢物語でんあろう。削った粉をソットふりかける 考えただけでん 夢がロマンがある故郷ん 一時じゃつた。



◎◎◎ 筵《ムシロ》干し ◎◎◎

稲刈りがすんじ こぎ落とすとカマゲに詰めち 家に運んじ 帰るが ここじ済んだ訳じゃねえ。これかる『庭さべ』が あ っち選別したら えーと一段落になる。『さぁ早いもんかる湯 にへーレ』 もう外は暗かりじゃが 交替じ湯にはいり 夕飯 ьяもう テイバンの『だんごじる』

次ん日にゃ庭に 筵がひろげられち 適量ん粉が配らると アセリボウじ 平らに広げち陽じ乾かす。秋になっち柔らけ一 日が 粉う無理がねえごつ 乾かしちくるるが 時時にアセリ カヤシち アセリボウが 平らに広げち 日をまんべんのう 当てち乾かす。

多い家なんか100枚ぐれ 筵に干すもんじゃき 一回りが 済み一服すると 二変目んアセリが始まる。年寄りしが留守番 ぬ 兼ねちこん仕事が 専門になる。天気がよけりゃもう 手 じ当たると サラサラ心ちいい 音がしち出来上がり。刈っち 2, 3日 田んぼにドホシしちやるき 庭干しゃ一日でんいい ごつ 干上がった。

大カマゲに移すと もう晩方にゃ 今日んこぎ落としたんが 帰ちくる。腰巻ん裾にゃゆう 粉がちーちそこらじゅ かく ごつするき 肌が荒るるち心配する 若い娘たちも 戦争中にな っち モンペが出来ち 助かるち言う。大事な所にどま行くと もうオオゴチナルき。

『今日もアセリヨルナ』『うんこれじ今年しゃシマインごたる ぎ』『ひずかったなぁ』『おおきに』 近所ん小百姓が 心配しち イタワリン言葉かけよった。思い合う優しさが あ っちこっちじ 聞かるる農繁期でんある。

△△△ 棕櫚繩うち △△△

畑んくろにゃゆう 棕櫚が植えられちよる。崖ん崩れん予防やら こん皮をハイジ繩を作る。シュロナワじゃが 秋かる冬にかけち 若いしたちがヨリオウチ 4人じ組むと丈夫な 棕櫚繩が出来上がる。下から毎年2, 3枚ハイジ 繊維を集めち チットズツ寄せちゃ 繩に仕上ぐる。

寄りを入れちゃ3人が ねじちゃ次に回す 頭をくびった紐を1人が 引き上げちゃ つぎつぎとナイアグル。棕櫚は水にも強いもん 牛馬が使う道具にも 農具をしばったり アメヨケン蓑にも 用途は多かつたき 秋の風物詩でんある。棕櫚ん葉を上手に 工作したら 夏ん蠅たたきにも。

清水を取り込む簡易水道にゃ 水越し用タンクに敷き込むと こしみずになっち 使える道具にも。小さくより合わせると 囲いや小道具用の 繩に使われて 上品な園芸よう備品にも。水に強いき丈夫に 長く使える貴重品にもなる。農家が自然の材料で 英知を使った 道具作りは自然に 見て覚え教えて 長年使い次がれた材料でんある。

◇◇◇ 干し草いれ ◇◇◇

夏に畦草を切っちゃ 干して一日で干上がるのを 夕方集めち 冬期ん牛馬ん飼料にする。暑さのひどい日なら 一日で乾きあがり 薄緑色になった 草を寄せては束ねる。そんな時の香りは独特な匂い クサイキレが 牛馬には何よりの ごちそうでもあろう。こうした農家の苦労は 自然から水や太陽で 土をつかった米造のおかげで イノチキが出来る 感謝ん気持ちで 大事に土地を利用して 作り出しちよるごたる。



●●● 方言説明 ●●●

- 55P 村八分…同じ地域で意見の相違で反対されていて 葬儀と火災以外はつきあわない仕打ち。差別の様相。ダンゴジル…小麦粉利用の伸ばした ウドンより太めの麺製食品。イケカキ…死者を土葬する穴ほりの役。配給制度…物資がふそくになって 主なものが統制配給性となった。切符か配給ルート以外は手に入らない。ベイセンキシタ…米の選別機械の下に漏れて落ちた分。オロイーシ…がめつい人。
- 56P そりー…それに。ムドガル…かわいいがる。斗棒かけ…升で計る時に棒で升の縁すれすれを落とす。トイモ…甘藷。アヤシタ…叩いて落とす。サンドーラ…米がこぼれないように俵の口と口の間に入れる藁性の用具。フセモントコ…もみ殻をいれて芋などの発芽させる仕組み。コーヤク…貼り薬。コボクレ…小さくなったかげたもの。ひじいんど…辛い疲れる動作。
- 57P チット…少し。そげじゃ…そうですよ。
- 58P ネキ…すぐそば。
- 59P カマゲ…45キロくらい入る穀物入れ藁制容器。庭さべ…農家の広い庭先で雑穀した粉を選別する作業。ヘーレ…入りなさい。アセリボウ…干した粉を平らに広げる農具。ドボシ…田んぼに広げてそのまま干す。大カマゲ…大きな入れもので粉が約60キロ入る藁性容器。そこにじゅう…あたりい一面。シマイン…終わりの。
- 60P くろ…隅っこ。ハイジ…剥ぎとって。ヨリオウチ…共同で作業。ナイアグル…寄りをいれて仕上げる。クサイキレ…干し草の独特な仕上げ方法で香る匂い。イノチキ…生活。

宝物にでもなるような 農家の庭先の風情は もう見られないしあっても お元気なお年寄りが 楽しみにしている作業と思われまます。時代の大きな変換でしょう。

葬儀にゃ組み内が 世話ん奉仕活動するんが 常識じゃつたが 戦時下じゃ なんぼ百姓農村ちゅうてん 思い通りん米が罷り通らん。酒も祝儀、不祝儀なんかに 特配もあつたが 便乗するしがあつたりしち これものうなつたごたる。事実物不足は 究極にまじ来ちよつたごたる。ほとんどがそげな目に。

葬儀にゃ決まって 故人の最後のお膳ち言うち 食事ん準備がされよつたが 農家ならいいけど そんな時が非農家なら 米ん調達はとてもじゃねえが 難しかった時代。ついに役所からん 通達じ一切中止になつち そんな告知する垂れ幕が 組内にも配布されたき 言い訳せんじ済む そげな場面も出来た。

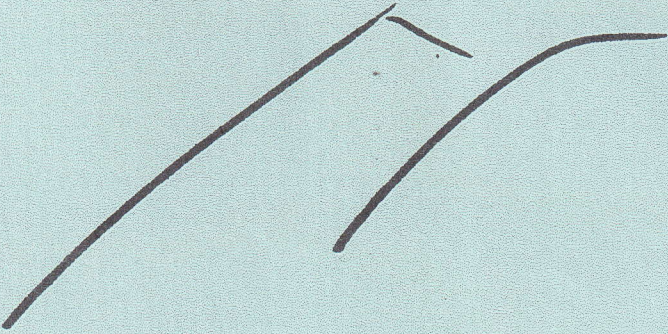
勿論酒もねえき 親戚でんお茶じ我慢。そげな厳しい話しゃ 今聞くともう大笑いにでん なりそうじゃが 時が時だけにこげな 佐しい葬儀がされよつた。じゃが戦死者ん場合は 違いよつたな お国んために戦死じゃき むりもねえ取扱い。戦争たあこげな場面も見られ 恥をかくような 哀れさもあつた。

そしちこんだ衣料切符も 始まच्चハンカチ買うにでん 1点取らるるようなありさま。物不足はこげな所まじ 追い詰められ金物は供出になつた。コンメーモンにゃ タンスん引き手 仏様ん金具まじ出すこちなつた。お寺ん釣鐘も 目をつけられち真面目な お坊さんどま もう青くなつたりん始末。

こげ一皆が惜しみつつ で一たんじゃが それが果たしてどんくれ 役立ったじゃろうか 無事に帰つた鐘もあつたが 溶かされた鐘もあつたんじゃ なかろうか 恨みの音が聞かれそうな。軍需工場に運びこまれた後 戦争に使われんじゃつたな せめても幸せじゃつたかん知れん。戦争たあ惨めなもん 人間殺しあいじゃき 相手が死ぬか 自分が殺されるか こげな事があつちいいんか思い知らされます。



五
十
一
版



『ご挨拶のいい子ども』

『ぼあちゃん ただいま』『あら帰ったかえ』 いつも元気のいい声で 学校から帰り道じ 挨拶して帰る文ちゃん。笑顔がいいもんじゃき みんなに好かれよった。親にしちみると 笑顔がいいんわ いいけど もちっと勉強ができたら いつもそれが悩みん種でもあった。

ある日のこと 学校かるん 帰りが遅いもんじゃき ぼあちゃんも 昼ごはん食わずに 待ちよつた。あいにく こん日は稲刈りが 忙しいもんじゃき お父さん お母さんは 田んぼで稲刈りじ 昼は田んぼに 弁当をもって行き 田んぼで 食べるので 家じゃ 昼ごんは ぼあちゃんは 文ちゃんと二人でと 待っていたのです。

ところが 帰り道で 慌てて溝に 落ちた文ちゃんは そんな時に 通り合わせた 人たちが 『こん子は ゆう挨拶する子じゃ』と 抱えあげち 傷の手当てを するために 家に連れて帰り 手当てしよったから 帰りが遅れて ぼあちゃんの 待っている事も知らないもので 蒸しマンジュウを 食べさせちよつた。

文ちゃんも 抱き上げち 傷ん手当てまで しちもらったもんじ 傷の痛みが ちっとゆうなると おいしい蒸しマンジュウが アンマリ おいしいもんじゃき つい忘れて しまっちよつた。『挨拶をよくする』 あたりえの ことをよくする それだけじ 文ちゃんな みんなから こげえ大事に されよったんです。

昼のサイレンが 鳴ったのに 文ちゃんは 『はっ』と 家で待っちょる ぼあちゃんの 事を思い出しました。帰ろうとする文ちゃんぬ見て この家の お兄ちゃんは 『帰るの 僕が送って行くから』と 自転車を出していました。

恥ずかしそうに テレ文ちゃんぬ うしろの荷台に乗せ
ばあちゃんの 待っている家に向かいました。『文ちゃんな
ゆう挨拶するきち みんな言iyorんで お利口じゃなァ』
恥ずかしい思いで 黙っていました』 でも お兄ちゃんは
言いつづけました 人に挨拶するのは 『人からも信用されち
大事に してもらいだすんで』

そんな通りと思いました 今日もすぐ 抱えあげちもらい 傷
ん手当ても それにおいしい 蒸しマンジュウまで 頂いて。
そう言われると 嬉しくなって 涙がこほれそう。でも待って
おる ばあちゃんには 心配かけてしまった。いろんな事が
頭の中で クルクル回っていました。

家につくと お兄ちゃんが 乗せてきたことを 話しました
ので ばあちゃんも安心して 『ありがとうな ちよつと待っ
て』と 奥に入ると 『やきごめ』を 袋に包んで 差し出す
と 『はい お礼に やき米 あげましょう』 お兄ちゃんも
『ばあちゃん ありがとう』 会釈しました。

『よかったなァ みよ よう挨拶するけん ご褒美じゃな』
『うん』 文ちゃんは 少し恥ずかしそうですが 何かとても
うれしかったのです。たった 挨拶するだけが こげえ人に
大事にしちもらう。『そうじゃ これだけじゃねえ 勉強も
しゃんとせにゃ』 文ちゃんは 心に約束しました。

傷がゆうなった 日曜日 ばあちゃんに 作ってもらった
『おはぎ』を もって お兄ちゃんの家にお礼に行きました
。お兄ちゃんは 留守でしたが 『早く治るといいが』と
心配しよったと 聞いて とても嬉しくなりました。人の事を
し心配してくける そんな人間にも なりたいと。



『人それぞれん思い願ひがある』

葉末に光る一滴ん露にも 金剛石ん美しさがあり 汗にまみれた農夫ん顔にも 華やかな王冠と威力を競う 輝きもある。今日を使えよ 他日あると信ずるなかれ。同じ石に二度と 躓くなかれ。会話の第一要素は真実 第二は見識 第三は快適 第四は頓知である。

こげえ並ぶると『なるほど』ち 頷く人は可能性が大きいが 怪訝に思うと不安もありそう。ましてや頭から無視じゃ 大丈夫と心配にもなるんが 世の中ん常でんあろう。言うは簡単じゃが 実行となりゃ そりゃまゝ至難の技でんある。が手をこまねいちよりゃ 宝ん山もじっとしちよらん。

昔『鯛を貰うたきチットあぐるで』ち 親切心じ言うとはんち思うたか いきなりヒッコスグごつ 受け取ると 『こん飯泥棒ん餓鬼』ち 見ちよらんごつなると うっすてち 怒り回りよる。そしち 戸棚かるで一た キラスを押し頂いち 食いはじめた。『これがあるき 銭もたまるわい。

思ひよう考えようじ 人ん言うこた一簡単じゃねえき わしどうにゃ通用せん。あっさり諦めたんじゃ 元も子もねえ話。やっちおみり 人に出来ち自分に 出来んこたあるめ一で。出来んとすりゃ 何かどっか違ふ 所がありゃせんかなあ。一つうまく行くと 次ん段なそん ハズミじひよいと 上がるもん。

跳ね釣瓶は両方が揃わんき 汲み上がるコチなる。ほんないっペンなさがっち そんはずみじ 上がるちゅうな どげ一な。無理引きおり一たな きっと反動じ上がるもん。腹う立つるんも時にゃいいが ねんじゅになると 腹ん皮もゆる一じ のぼんごつなっち 都合ゆうなるんが 世の中でんある。

こん頃はなんかゆう 総理大臣も交替しよる。順送りじゃなからうけんども たまにゃ何十年も やらせられるそげな 人は出らんのじゃろうか。長く続くとこんだ いろいろ悪評も出る。大体強固な意志が薄いごたる やりかけたら全てを 犠牲にしてでんやり遂げる そげな井戸堀気質は もうねえごたる。

セチナギー…情けなくて忿懣やるかたなし。

ソゲンコトジイインナ…そんな状態でいいのですか。

ダレデンシキルデ…誰にでも出来るのに。

ヘモドットンジャワリー…元に戻ったのでは意味がない。

ヒトンフンドシジスモトル…人を踏み台にしては悪質。

戦後は自由平等が 大変素晴らしい国に 変身したち思うたが ちっと 自由を履き違え 勝手に何もかも しても構わぬと言う人が多くなつたごたる。言う事は気ままに 実行はせんでいい世の中ん歯車は 旨く回転せんごたる。無理やり回すと それこそクズレ 後始末ん悪い 命ん危険性まじ残る。

昭和35年頃に 識者が心配しち『一億総白痴』ち それがボチボチ頭あげかけたごたる。あんまり進歩発展したき 影べらじあぶら虫銭食い虫が ハビコッチョル。銭くわすりゃ オトナシイが 銭がのうなると 目に見えん所から 無線じでんワヤクモウ 油断も隙もねえごたる。

そんうち『地球悪玉競技会』が 幅利かするんじゃ なからうか。生活保護すれすれじ 頑張る人たちん 心境やいかに。それも戦後復興に汗流した 農業にしがみちーち ここまじ来たに。『老後は年金じ』そげな 夢やロマンはもう 危ねえごたるが。どこじどげーなりよるんな。素人は解らんが。方言じシヤベルト『ふんともう しょわなからうかなえ。ウットドウ 気がきじゃねえんで イサギユセンと ちょつけまっけゃ ユウナルメ』



挨拶たゝ気持ちいい出会い それに笑顔は千両とん言う。心
あソリャモウ明りいき 人にゃ好かるるこちもなる。中にゃすれ
ごうてん コスリオウテン ものも言わんしもあるが 生きちよ
る仲めーどんくれ 損ぬスルジャロウカ。賑やこう声をかくる
そげなしもオルガ 話しかけ上手も程度もんでんある。

じゃが気軽に誰にでん 挨拶するこた一な百難も 逃れる事じ
ゃつちある。泥棒を追いかけてよった時 『誰かあいつ泥棒じゃき
トツカマエな』 そんな声は聞き覚えん声 みんな飛びでちそん
逃ぐる 泥棒を追いかけて ヒツカマエタ。挨拶ん声がみんな
ん 耳に残っちゃつた 何よりん証ん助け船じゃろう。

こげんな明るいしが 多い社会は楽しい環境 住みいい町にも
なるごたる。『こんだん区長さんな サバケチョルナ』『ソウデ
ユウ世話しちくるる』 評判が立つと 本人もミョウナコター
出来んき 真剣に世話したもんじゃき 秋ん敬老会じ 年寄りか
る感謝状を貰った。

『当たりまえん事をしたまで』ち 謙遜しよるが そんな当たり
前がなかなか出来ん そげな世の中えなちよる。『あんまりゆ
うするき 後ん世話役が ナリテガネエカ 知れんでなえ』 嬉
しい評判じゃが そげなしゃチャント 後継者も育てちよるき
サラリと次ん改選にゃ 後継者も決まった。

ちゃんと指導ん影武者としち アドバイスもしよった。連携し
た地区ん運営が効果も あげちよるいい例でんある。みんなの地
区じゃき みんなが協力しちこす 住みいい場所にもなる。羨ま
しがらるるのん 世話役だけじゃのうじ 地区みんなん共同体が
相乗効果をあげた証じゃろう。

楽しく生きち行くこた一 幸せ
ん原点でんある。そこにゃ思いやりも 肝心でんあろうなえ。

△□△□△ 方言説明 △□△□△

- 63P かるん…からの。させちよつた…させていた。しちもろうたもんじ…してもらっていたので。ちよつとゆうなると…少しよくなったので。アンマリ…あまりに。しまっちよつた…しまっていた。されよつたんです…されていのです。
- 64P そんな…その。クルクルまわって…あっちこっちと巡って。そうじゃ…そうと気がつく。しゃんとせにゃ…しつかりしないと。
- 65P 並ぶると…並べてみると。しちよらん…していません。チットあぐるで…少しあげますから。こん飯どろぼう…この飯を思わず食べる犯人になって。でーた…出した。キラス…オカラ。わしどうにゃ…私たちには。
- 66p クズレ…壊れて落ちる。ボチボチ…ゆつくりりと。一億総白痴…一億の人口が全員白痴症になるのではと心配。ハビコッチ…増え広がって。アブラ虫…ゴキブリ。オトナシイ…静かで優しい行動。ワヤク…いたずら。どこじどげー…どこでなにしているか。ウットドウ…私たち。イサギユ…潔白じ早い動き。ユウナルメ…よくなならないだろう。
- 67P ソリャモウ…それはとても。コスリオウテン…ふれあっても。スルジャロウ…することでしょう。ヒツツカマエタ…捕まえて。サバケチョル…潔白で率先実行。ソウデュウ…うですよとても。ミョウナコター…変なことは。ナリテガネエカ…なる人がいないか。チャント…きちんと。だけじゃのうじ…そんな人たちだけでなく皆んなで。

人と人の英知アイデアで 地域は発展するものでしょう。



天話集

『お宮お寺が高い所に多い』

農家が水の流れにチケー所に 多いのに比べち鎮守の森 仏に
関係んある建物は 高え場所にユウアルんも 先人たち理屈も
チャント 考えち建てちよつた。こりゃ疎外するんじやのうじ
『まさか』ん時ん神たのみ 仏すがりがそげー させたんじやろ
う。シケが来る 大雨がふる 川が氾濫しち田も 家も流された
そげな時い とりあえず救わるる。

大広間があっち人ん 寄りつきも自由に出来ち 一時ゃイノチ
キも出来たもん。お宮にしてん板敷きじゃが 人がいつもは オ
ランし 御輿ん倉もあるき 当座は凌げる場所。水ん恐怖かる
ここならチッタ気持ちも 和らぐことじやろう。住む場所造りま
じん なかままじゃ ここに掘建て小屋でん 軒先んつつかけで
ん 暮らせるごたる。

先人がそんナカメ 皆んなづり掘建て家でん 建つるに加勢
やんがちそきー 帰らるるごちなる。住み慣れた場所 そかー水
ん氾濫があってん 水に便利がいいと 『やっばここがいい』ち
戻る例も多いんも 哀愁が引き付くるんか。水はドゲ言うてん
人間の生活にゃ 切つても切れん関わり。

『湖底に沈む故郷』

下原地区に『大分川ダム《仮称》』が やんがち出来あがる。
それじ故郷を離れち 近くに集団移転したが 長年住み慣れた
人たちん気持ちゃ いかばかりか 想像も出来る。特に高齢者に
しちみりゃ なおさらでんあったろう。景観のいい山と青い空が
眺められ 青空にゃいつもキラキラ 美しい星が輝きよつた。国
道かるつづら道を 下ると古い橋ん上に かさあげしち架けた橋
があっち 横かる眺めた様は 二重橋じ絵にもなりよつた。

目をあげちコンモリそそり立つ そんなにゃまるじ 水墨画ん
のごたる古い松が 根を張り枝が延び やんがちダム湖を眺め
散策も出来る 周遊道路もここん側に通る。東にゃ地域ん忠魂碑
ん 美しい山が遠望に入る。眼下を流るる七瀬川ん 川底を敷き
つめた岩盤は 阿蘇火山噴火の 溶岩がここまじ 流れ延びたち
言う。昔ん歴史が感じられもする。

自然の地形が移り変わる 歴史をじっと見つめち 何か語りか
けちくれそうじゃが 故郷ん変貌にゃ 明日ん希望ん発展振興を
念じたいもんでんある。南に連なる道も出来ち 上ると『四辻峠
景観』に 辿ることも出来る。南北を貫く機関道路は 別府かる
狭間、庄内⇄經由しちここかる 大野、三重に通じる。

§ § 宇曾に行こうか温見に出よか 四辻峠の思案顔 ハ七瀬の
せせらぎ 小鮎がスイスイ ホイホイホイ。
あん娘年頃 姉さんかぶり いつか覚えた馬子唄を
ハ 七瀬のせせらぎ 紅葉がチラホラ ホイホイホイ § §

旅の人とつれのうち 馬子ん五助が いい声で唄うと年頃ん娘
が 頭ん手拭いを サット取ると 振りよる……わかったんか
続けに 大きな声じ 馬子唄が聞かるるんも のどかなこと。

四辻峠かる見る 夕焼けゃまた格別 あたりう紅色に染めち
山肌に響くごたる 馬子唄が タマランゴツ聞かるるんも のど
かな夕暮れ時ん 近まりでんあろう。草履うつつかけち 遊びよ
った子どもたちも 半纏じ鼻ん下をススリナガラ ぴらぴらツウ
ジ 帰っちいく。どこん牛か 大けななき声は 『ヒモジュナッ
タンカ』

五助ん引いたアオも ちったヒモジインジャロウ 合わせち
嘶くんのも何か ユウわかる思いもした。



時代は変貌する 宿命の移転もある

神社じゃち移転もセニャナラン そげな事もあるもんじ 時にゃ前もっち新築した場所に 関係者が関わっち 移るこちなる。紙マスクを口にあてち 厳かに神主人護持によっち 新築社殿に移りそこじ 祝詞から納め神楽なんかじ 無事に移転になる。人が関わる事によっち 変わらにゃならん これも巡り合わせじゃろうが 町村合併なんかじ 神社ん併合なんかも 見られたごたる。

洪水じ流されち偶然にも 途中ん岩場に止まり そんな場所が後に納まりん地になった例。集落ん統合なんかと 場所を移転したなんかもあり 戦火におうち場所替えした例。世の習わしに同調しつつ 常に民安かれと 祭って奉仕する例もある。寺の場合も戦火の焼き討ちにあう 戦国時代んムゴトラシイ 思い出がいつか消え失せ 忘れられる儂さ。

でん人が幸せに過ごす事に 限りのう護っちくれた 神や仏は常に人間の周辺にあっち ご加護しちもくるる 絆は強うじ嬉しいもんでんある。戦争時代でも人ん行き先にゃ きまっち神社があっち お互いん幸せを念じた歴史 それはまさに人も神に 神も人に連れ添う美風もあったからこす お互いが幸せに過ごせた証でんあろう。

寺の後が寺屋敷とん言う お宮ん後が宮屋敷とん言うんも 名残りでんあり聖地としち 大切にした人の優しさが 伺えち嬉しいことであらう。人間が生まれると神に そして死者は仏にと 気持ち託すんもそげな 過去ん歴史がそげーさせる 習慣が自然に思いに 行動に変わるんじゃろう。

宇宙から預かった身体を お返しする心ん その儀式じゃろう。

想いでとここに来て 一人歩いた
岸辺には今年も 白ユリ咲いてます
楽しかったの今は 素直になりたい
もう一度二人寄り添う 霧の七瀬川

幸せと書いて見た 心の中に
忘れぬあの人 遠くの街か
追いかけても消えてく

淡いシャボン玉

もう一度呼んで見たいの

夢の七瀬川

せらぎも消えて行く 流れるままに
あなたとの生活 沈んだ水の中
泣いてみたってつきない 叫んでも
もう一度燃えて みたいな恋の七瀬河。

昭和63年8月七瀬川
の上流の下詰地区に
ある『河川プール』に
楽しい 時間を利用して
来ていた 盲学校の
生徒さんたち。美しい
爽やかな水の中で日頃
の 生活から離れた心
の和み。そこで聞いた
白ユリ 香り仄かなそ
の感触や巡り会わせた
幸せを 詩に表現した
のがこの歌詩でした。

- ★ 生徒さんがん真心こめた 作詞に感動した同じ 目の不自由な学校ん先生が すぐ作曲したんを テープ録音しち送っくれました。そん歌がこれじ おなじ不自由な学友が 歌も録音したもんじ 譜面はないんじゃが 録音テープにゃ情愛が こめられちよるように感じとるる。

平成2年の『ふるさとまつり』じゃ 大勢ん参加者ん前じ 歌の録音に歌った人が 舞台上披露しちご褒美も 喜んで受け取って心から作詞者にも感謝したよう。美しい水がサラサラと 流るる七瀬川もここまじ来ると やんがちダム湖にたまる。あん時ん白ユリはきっと 植え変えられち湖畔じ いじらしゅう咲いちょることじゃろう。



△△ 鉱泉脈が通る七瀬川流域 △△

こげな美しい水ばたにゃ 茶褐色ん流れ水ん通る 道が多い。
塩分がチッタあるもんじゃき 夏どま喉ん乾き止めにゃ 飲み物
にゃピツタリコンコン。こんだ引きくうじ 沸かしち入ると肌
ついた 傷ん予防にも効果があるらしい。水脈はこんまま東に
延んじ塚野にゃ歴史もある 霊泉場も出来ちよる。

途中にも何軒かが 『湯場』としち沸かしよるが ひとむかし
前まじゃ定期的な 入湯客もあっち結構 喜ばれよった。カンカ
ン帽子かぶった 街かるんしが 火ノシン効いた浴衣がけじ 顔
馴染みになった 湯場に来るなんか 風物詩にもなちよつた。
五衛門風呂も新しゅう 鑄物風呂釜になち ちっと沸かした湯
は 回りん景観ぬ眺めよると 鳥ん声やら木々んサヤ揺れがマァ
なんちゅうてん 気を紛らわせちもくるる。

こそっと流れ出よる場どま もう鍾乳石になった上を 朝日に
キラキラ輝くのん不思議な 光景でんあるごたる。ソン輝きよん
ぬ剥ごうかち 手じひっばったが そりゃもう無理じゃつた。そ
げー簡単にゃとてん 取れもせんしコサギもせん。じゃが不思議
と絶え間のう 流れ出よるんを見ると オシナギユウもある。

そげなちっと上手にゃ チャント神様を祭ちやる。自然に感
謝する人間本来ん 心ん現れでんあろう。神に護られ仏に諭され
ちこす 人間な生きらるるもん。じゃき感謝しちこす 幸せでん
あるんじゃろう。沸かしち待つ人 それに魅かるるごつ 来る人
たちが巡り会わする時 人は生かされ生きてもいる訳。

七瀬川にゃこげな不思議な 夢とロマンもあっち お互いがそ
こじイノチキしよる。じゃき感謝する気持ちは 当然の事でんあ
るが 中にゃトワズ言うち ホゲホッポーもおるが そりゃま
あ オッチョコチョイち 言わるるが落ちじゃろう。

西ん山に陽が傾くと 日のいりは早うじアッチ 想いよる間にも薄暗うなりよった。孫娘が一足先に帰っち 夕飯んダンゴジルう 炊くシコーしよった。門口じ お経が唱えられよる。と小雨がパラパラ落ちで一た。慌てた娘が 経を唱える旅の僧に 『そこは雨にあたるじゃろうき こっちお入りして』と恥じらいながら 申し上げよった。

『これはアイスミマセン』 言われるままに 庭先に入って 唱えるお経に 娘も戸惑っちょつた。誰もおらんし 帰れとも言えないし お経が終わったら ドケシュウカ。雨はますます大降りになったごたる。途切れた お経の間を見はからって

『雨ですき こちらにお休みください』と 表わきん軒先に休むように勧めた。

急いでお茶を お盆に乗せると 『まゝお茶でもひとつ』と丁寧差し出した。『これは手数を おかけします』と 両手を合わせて 押し頂くと お茶を受けとった。家族も早く帰ればと 背伸びしてしていると 小走りに帰って来たので ほっと安心した。旅の僧も安堵ようだった。

『旅のお坊様が お経あげてくれた』『そうか よかったのう』 僧侶に向かって 『雨になって難渋でしょう よかったら一夜の宿の お接待申しますが』 『勿体ないことです』 旅の僧も急ぐようでは なさそうだが 気がとがめたのかも。『お言葉に甘えて いいんでしょうか 明日朝は早たちしますので』 そこまで言うと 頭を深深とさげた。

雨はやまないままに 夜を迎えて旅の僧も あり合わせながらの 夕餉のお接待を頂いた。雨は降り続けているが。



束の間の巡り会わせた人生 年頃を迎えた孫娘にも 思わぬ
旅僧との出会いに 人としての複雑な想いが 脳裏をかすめよ
った。道中ん話やら苦勞する 農家ん話が交互に 行き来しち
流れる 時の短く切なさも これが人生でんあろうが。いつま
でん尽きない話も 早朝旅立ちにゃ 邪魔されんき 終わりん
暇ごいん挨拶になっち 終わった。

本当に突然のご迷惑に 誠に有難く感謝申します。お礼は何
もできませんが と『今一番こまっている ほしいことでも』
しばらく話が途絶えたか 『ここらは山の中で 水が一番不自
由なんじゃ 水がありゃ米も チッタ出来るじゃろうが お見
かけ通りのお接待で お泊めしちかえっち迷惑に』

僧侶はそっと考えていたが 『ありがとうございます よく
話してくださいました。私に出来るようならなんとか…』と
即答はセンジャツタガ 翌朝たつ前に 『もチョツトシタラ
西の谷に行って見てください 水が出ると思います』 丁寧
におじぎすると かき消すように旅の僧は 姿が見えんごつな
った。そりゃもう当たり前ん 事でんあつたが。

孫娘が朝飯炊き用ん 水くみに谷にゆくと 美しい水が鈴を
鳴らすように 流れよるんが見ゆる。チットズツじゃが 今ま
でよりゃ多いにタマガッチシモウタ。『ジイチャン バアチャ
ン 水かガイトれ流れよるに』 大声にタマガッタやうちも
そん声に『なにや本当か』『嘘 言うかえモウ』

ミンナずれ走っち谷ばたに ふんと今まじよりゃ デーブン
ヨキー流れるじゃねえな。『ああーもう フント』 のやノヤ
『コゲン嬉しいこたーねえのう』 もう涙が流れよる 顔 顔
お接待した旅ん僧が 約束しちくれた ご褒美じゃのう。孫娘
を抱きしめち 『お前がん手柄ど』『ひずうすると痛えがえ』

★★★ 方言説明 ★★★

- 69 P チケー…近く。ユウアル…よくある例。チャント…きちんと。イノチキ…生活。オラン…不在。シケ…暴風。
ナカメ…間に。やっぱ…やはり。やんがち…やがて。
ドゲ…どんなに。
- 70 P コンモリ…小高く。もんでん…ものでも。つれのうち
連れだって。サット…急に即座に。タマランゴツ…たま
らないような。ススリナガラ…吸い上げながら。ヒモジ
ュナツタンカ…空腹になったのか。
- 71 P セニャナラン…しなくてはならない。ムゴトラシイ…見
るにも見兼ねるような哀れさ。
- 72 P 河川プール…河川を利用してきけんのないように 水泳
の出来る場所を。七瀬川…豊後大野市の温見から大分市
まで西東にと流れる 大分川の支流の川。
- 73 P チッター…すこしは。カンカン帽子…夏用の紳士が被った
帽子。火マシ…火を入れたアイロンで仕上げする。サヤ
揺れ…爽やかに揺れる。ソン…その。コサギ…削り取る
。オシナギー…惜しくて。トワズ…冗談を。ホケポッポ
…湯気が立つように。
- 74 P アッチ…あって。シコー…準備。ドゲシューカ…どうし
ょうか。
- 75 P チョットシタラ…もしかしたら。チットズツ…少しずつ
。タマガッチ…吃驚して。

民話があるんはそこに 仄かな夢が残されている ロマンがある。
そんな故郷に恵まれた ウツドウは幸せじあり これかるも先人
の残しちくれた 宝物としち大事にせにゃ なるめーち思います。
それが故郷を愛する気持ち それによっち自分たちも 愛されなが
ら歴史は 次ん世代に継承する 役目をしたいもんです。

し
し
し

し
し
し

野津原方言單語
乙心が少



な ナー……そうではないのですか、そうきいたけど、それで。
ナーモシ…そうでしょうか、それでいいですか、よいですか。
ナーゲー…長いのですが、ながくて大丈夫、ながいのでいい。
ナーチュウニ……よいのですね、よろしいのですね、よいの。
ナーエー……よいんでしょう、よいですか、いいんですか。
ナアナバナシ……勝手にさそいこんで、こっちに乗せて。
ナアチャ……それでいいでしょう、勝手にきめてもよいの。
ナアナ……いいよね、いいんでしょう、よいのですね。
ナアニモネエ……なにもないのですよ、なにもないから。
ナァチュウテン……いくにいても、返事がないがよいの。

ナァチャダリ……なゝですかと誰に、貴方に言ったのですよ。
ナァナユウナ…言わないと返事しないから、言わねば答が。
ナァエ…そうでしょうか、そうではないのですか、いいでしょ。
ナァー……いいんでしょう、答えがないから、どう思う。
ナイニ……ないのですよ、ないからどうする、ないので。
ナイキ……ないですから、ないものですから、ないんです。
ナイタナダレカ…泣いたのは誰ですか、泣いてもしらないよ。
ナイナイスルな…おしてしまふ、納めておきます、隠します。
ナイチャラン……泣いてはあげないよ、悲しまないから。
ナイチョキャ……泣いておけば、泣くのも方便で、泣く加勢。

ナイチャレ…ないてあげなさい、ないて同情する、なくのも。
ナイーチョケ……なおしておく、格納して、納めておけば。
ナイショド……ないしょにしてね、だまっておいてね。無言。
ナイキノ……ないからね、ないのでですよ、なくなったので。
ナイタテン……泣いたとて、泣いたからとて、なくてにゃ。
ナイナイ……なくなったよ、終わりにします、おしまいです。
ナイショゴチ……ないしょにしてね、黙っておいてね。
ナイチュウンカ……ないと言うのですか、ないと言うの。
ナインンカ……ないなどとは、無いとは言わせないから。

な ナウ………ない合わせる、寄りあわせて編む、縄に仕上げる。
ナウカ………ない合わせますか、寄りあわせて縄に仕上げる。
ナウナ………ないますか、縄をないますか、縄をつくりますか。
ナウキ…ないますから、ない合わせますから、縄を作ります。
ナウグレハ…寄りあわせてなうくらいは、縄をなうくらいは。
ナウヌー………なうのですから、縄をなうので、縄ないを。
ナウンカ………なうのですか、縄ないをしますか、縄をなうの。
ナウニ………なうのですが、縄ないをしますから。
ナウタ…縄をなうとはたいしたものだ、縄ないは至難じゃが。
ナウヤ………なうとはたいしたもの、縄ないが上手に。

ナウソベ…ナウ側で見学、縄ないは難しいが、縄ない出来は。
ナウナリヤ………なうのならこちらで、縄ないは技術もいるが。
ナウマジ…ナウ迄が大変、なう楽しみは格別、縄ないの技法。
ナウナリ………縄ないしてそのままに、縄ないの後どこかに。
ナウンカ…なうのですか、縄ないをしますか、縄ないは楽し。
ナウメーカー………なうまいかと、なわないは飽いたので。
ナウチュウテン………なうと言うでも素人、まだ縄ないの初歩。
ナウチュウキ………なわないを言うので、縄ないの初歩。
ナエナガレ…苗が流れる病気、植え方の不備で浮いて流れる。
ナエトガ………弱った苗が萎えて、弱い苗の腐敗状態。

ナエトキジ………苗を育てる時期、苗作りの季節に、苗半作。
ナエクレ………苗をください、苗をもらってもいい、苗取りに。
ナエヤ………なえですか、苗ならこっちにある、苗は準備。
ナエハンサク………苗がよければ半分出来た、苗で決まるよう。
ナエチョリヤ…萎えて痛んだ苗、病気に痛んだ、広がる前に。
ナエルリヤ………なえられるようなら、縄ないも楽しいもの。
ナエレテン………なえれても無理は禁物、縄ないは難しい。
ナエタエ………なえましたか、縄が見事に出来た、よく出来た。
ナエシロ………稲の苗づくり、稲苗の床になる場所。



なう…一口に『なう』と言うと 難しい単語になるじゃけど
糸条のもの 紐のようなものなどをヨリアワセル。
そんな状態を 『なう』と言う事になります。だから
『なう』は一般的に 使う標準語に入るかも 知れな
いが連なる言葉が 方言になるので 78Pには取り
あげました。

だから『なえ』『なう』『なお』『ない』なんか
出されたわけです。

な ナオセ…格納、なおしなさい、修正して、修理して、改善し。
ナオソ…格納しよう、修理して、繕うて、改善して、元に。
ナオラン…直らない、復旧は無理、修正不能、部品がない。
ナオドキ…菜っ葉をのけて、名はのけられないが、無理な。
ナオナウ…縄をなつて、縄をあんで、縄を作つて。
ナオノコツ…なおさらの話、念入りの上で、精密に調べ。
ナオシタ…直しました、修理しました、取り替えて修復。
ナオル…直ります、正座して、かしこまって、座につく。
ナオリメ…直らない、修理は無理、部品がなくて。
ナオレージ…なおりますよ、直るはずだから、修理可能で。

ナオノコチ…なおさらの事で、必要だから、ぜひ必要で。
ナオクリ…これ以上ほしい、菜をください、名前がほしい。
ナオッタ…直りました、修理が完了、座ったので、正座に。
ナオロカ…直るのでしょうか、治るのでは、修理が効きますか。
ナオワケ…菜を間引きして、名前を別けてまな弟子に。
ナオリャコス…治ればこそ、治るのなら、治る確信が。
ナオリナァ…治りなさいよ、なおりますからね。正座に座る。
ナオルンド…治りますから、必ず治る確信で、元に戻った。
ナオレージャ…治りますとも、なおるの間違いなし。
ナオッチ…治ったので、治ればこっちのもの、完治した。

な ナカロカ……ないでしょうか、ないのでは、ないと思うが。
ナカヌリ……壁の荒の次に塗る工程、壁の再生の方法。
ナカンアシユ……真ん中の足、男性性器の表現方法の一つ。
ナカサンキ…泣かさないで、泣かしはしない、泣かせない。
ナカモウ……仲間を、友達に仲間の、大勢の友達仲間。
ナガセ……梅雨の異名、長い期間の雨の異称、雨時の言葉。
ナガノージ…長くなくて、長持ちしないので、長持ちは無理。
ナカロウ……ないでしょうか、ないのでは、ないと思うが。
ナカソウ……泣かせましょうか、泣かせてよいの、泣かせる。
ナカ……麦幅の中間、植えたうねの間、中間の場面。

ナガイキャ……長生きは幸せ、長く生きる健康、長寿の人。
ナガメチョケ……眺めていると、眺望が効くと、景観がよい。
ナガナリ……長くなって、ゆっくり長くなり、ゆったり姿勢。
ナカロウカ…ないでしょうか、ないかも知れないが、ないか。
ナカナカ……とてもたしか、無理とは思ふ、油断がならない。
ナガセニャ…梅雨の大雨には、豪雨には困った、大雨に注意。
ナカヨコイ……仲間の休憩、一休みする、途中休息时间。
ナカルリャ……泣かれると、なかれてはもう、泣く子は苦手。
ナカユウシチ……仲よくしてね、皆んな仲良し、円満友愛。
ナガリャ……ながらであれば、普通の気持ちであれば。

ナガンナチ…長い期間の夏の、長い暑い夏で、暑中は苦手。
ナカスル……咲かせるのも、咲かせて喜ぶ、咲かせた嬉しさ。
ナカメシ……中が飯なら円満、回りに餡をつけたオハギ。
ナキンナミダ……泣き叫ぶありさま、なく切ない場面の。
ナキショボ……泣き果てて哀れ、泣くほど泣いた哀れさ。
ナキュミンナ…泣くめに合わぬよう、泣くことにならぬよう。
ナキシボクレ……泣いて疲れた哀れさ、泣きに目を腫らして。
ナキベス……泣き癖がついた、すぐ泣きわめくのも。
ナキバリユ……泣き腫れた可愛いそうな、泣くまで泣いたら。



な ナキシコナケ…泣きたいだけ、泣けば気もまぎれ、納得まで。
ナキシコナラ…泣きたいだけなら、納得ゆけばそれもよい。
ナギタエーチ…なぎ倒して、風圧で倒した、無理に倒す。
ナギーチョル…なぎ倒された様子、倒れたありさまも。
ナキゴタヒトナミ…泣くことは人並み、悔しいのは誰も。
ナキナキ…くわしいけれど、泣くのは辛いもの、覚悟は。
ナキトデン…泣きたくても泣けない、辛さも泣き言。
ナキダル…泣いて疲れて諦め、泣くだけ泣いたので。
ナキヤ…泣けば気持ちも落ち着く、泣くことが解決にも。
ナキマニュ…泣き真似までしたか。泣き真似も方便。

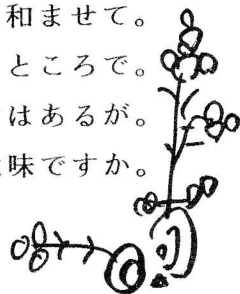
ナキテーナ…泣きたくても、泣けない事情も、泣くほどに。
ナクコタ…泣かなくても、泣いても意味はない、泣くのは。
ナククシ…泣くくせにすぐ笑う、泣くのはおはこ。
ナクガイイ…泣くのもよいが、泣かなくても気持ちわかる。
ナグ…男の雇い込み労力、住み込み雇いの労力。
ナグサミ…心慰める仕種、楽しみな方法の一つ。
ナクンナ…泣くのですか、泣くのもよいけれど。
ナグレオシイ…なごり惜しい別れ、又いつあえるか。
ナクヌ…泣くのを耐え忍び、泣いたとてどうにもならぬが。
ナクノン…泣くのもよくわかる、泣いたとてどうにもならぬ。

ナゲナ…長いものじゃ、ながいのもいいが、長いと不便も。
ナゲデン…長くても、長すぎても困る、長くて迷惑な。
ナゲテン…投げても、投げたとしても、投げられるのでは。
ナケズシ…泣けないままに、泣けなくて、泣くのを我慢して。
ナゲヨセン…なげる間もなく、投げないままに、投げずに。
ナゲタニ…投げたのに、投げたけれど、投げたはよいが。
ナゲナリ…投げたままに、投げてそのままに、なげて知らず。
ナゲコタ…長いことは、もう長くはないのでは、長持ちなし。
ナゲコシャ…なげるには無理かも、投げて届かない。

な ナケベソ……すぐ泣き出す子、泣く癖の子、泣くのは得意な。
ナケハラシチ……泣くので目も腫らして、涙もろい性格。
ナケンキムリ……泣けないから無理な、泣くのは苦手な性格。
ナゲゼニ…お賽銭など投げて奉納する、舞台に祝儀で投げる。
ナケベサ……泣く癖の子、泣きやすい性格の人、泣くことで。
ナゲモチ……餅を投げる縁起の行事、棟上げのひとぎ餅。
ナゲヤイコ…投げ比べの競技、投げて距離を競う、投げ比べ。
ナケチ……泣きなさいと勧める、泣く演技の舞台、泣く場面。
ナゲンキ……投げないから、投げませんから、取りにきて。
ナゲマワス……やたらと投げて喜ぶ、投げて喜ぶ性格。

ナゲーニノ……長いのにと歎心、長さにびっくり、長さ比べ。
ナコヒク……畝の間を耕しながら除草、畝間の草取り。
ナコーモンナラ……泣くのであるのなら、泣き役は難しい。
ナゴネツ Chol…長い時間練り回す御輿、賑わいを演出する。
ナゴスリヤ……長くすれば、長い時間米すりを、長い時間を。
ナゴニモ……雇い入れ男にも、奉公人にも同じ待遇を。
ナコシャク……中を裂いて、中を割いて使う、利用方法の。
ナゴナッチ…長くなって休憩する、一休みの姿勢で。長時間。
ナコードチ……泣くのではと待つと、泣きはじめの仕種。
ナゴヤトウチ……男雇い入れの労力、住み込み男の労力。

ナゴーツカエ……長く使って、住み込み男を利用して。
ナサルリヤ…されるままに、自由に使っての作業、自由利用。
ナサキヤワスルンナ…受けた恩は忘れずに、恩返しの気持ち。
ナサケネ……悔しくて、無情な思いに、くやしい思い。
ナザシユ……名前を表に出して、名前が出たのではもう。
ナザメチャレ……落ち着かせて、素直にさせて、和ませて。
ナザメニャノ……落ち着かせないと、落ち着いたところで。
ナシデン……なでも、そうであっても、そうではあるが。
ナシカ…なでですか、なてでしょうか、どう言う意味ですか。



な ナシヤ……なですか、なでなのです、どうしてでしょう。
ナシイイ……なですか、なでよいの、そんなによいの。
ナシエ……なですか、どうしてそうなるの、そんなになるの。
ナンデン……なににでも、なににでも、なににでもなるから。
ナシカエ…なですか、なででしょうか、どうしてそんなに。
ナジレ Chol…弱って元気がないよう、少し具合が悪いの。
ナジルル…弱々しくて具合が悪いのでは、大丈夫ですか。
ナシカシランガな…でかわからないが、どうしてでしょう。
ナシチュウテン…なでと言うても、なしと申しても理由が。
ナジマニヤ…なじまないようで、仲たがいのようで。

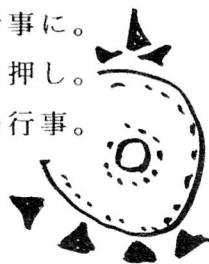
ナシナ……なですか、どうしたのですか、何事があったの。
ナジュ…弱りきってしまったよう、弱々しい言葉使いで。
ナズリヤイイ…撫でてあげたら、撫でると機嫌がよくなる。
ナズル…撫でれば元気になる、大事に撫でてあげなさい。
ナスビュ…ナスをあげましょう、茄子はいりませんか。
ナスル…撫でて愛撫してあげると、大事に介抱してあげたら。
ナズカクリャ…謎が解けるといいが、謎の意味がわかるか。
ナズンナラ…撫でるのなら、撫でて満足すれば上出来。
ナズリツケチ…撫でる癖がついて、いつもおねだりの。
ナズカキュ…謎をかけて意味がわかるといいが、果たして。

ナゼクレ…撫でるのも程度もので、撫でてかえって逆に。
ナゼチュウテン…なでと申しても、理屈はそうでも。
ナゼノ…撫でてすぐだから、撫でたもので興奮したよう。
ナゼジャロ…どうしてでしょう、なでか意味がわからず。
ナゼゼン…なでと言うても、そうは言うでも相手もわからず。
ナゼマエーチ…撫でまわして程度過ぎたよう、何もほとんど。
ナゼタンカ…撫でたのですか、喜んだのだろう、それでよし。
ナゼラリュウト…撫でられても平気、撫でたのならいい気持。
ナゼクリ…撫で回すのもよいが、程程がよいのでは。

な ナゾクラビュ……謎くらべやいこするか、謎なら負けない。
ナゾンゴタル……謎のようだから、謎は得意なようなので。
ナゾカキュ……謎くらべして、謎のかけあいは同。謎合戦も。
ナゾッテン…字の上を鉛筆でたどる、字の上を伝って行くと。
ナゾン……謎の、謎の場合は、謎が主体の遊びなどが。
ナゾドンシラビ……謎を調べてみれば、謎は面白い遊びで。
ナゾルソベ……字をたどって行くと、たどるのも面白い。
ナタリ…当たりの場、途中でやめた場、おいたままになって。
ナダメテン……落ち着かせても、気持ちを穏やかにしても。
ナタアチー……夏は暑いが決まり、夏は格別な暑さに。

ナダシスリャ……名前がだされると、名前が出たのでは。
ナター……夏は、夏はの暑さが想像されて、夏は日が短い。
ナタリ…やりっぱなし、そのままの状態、かたづけしないで。
ナタマミャ…たちわけ豆、弦に上って咲いた花が元にもどる。
ナタクビュ……首を片方にかしげて、その様が鉈のような形。
ナタネデン…菜の花を絞って取る油でも、昔の食用油代表格。
ナタシゴツ……夏の仕事として、夏の大変な仕事は。
ナダメチョケ……落ち着かせてあげる、興奮から覚まして。
ナタ……山林仕事の用具、木をきったりする農工道具。
ナチナリャ……夏になると、なつになったので、夏仕事が。

ナチマワリャ……夏に回ってのお願い、夏の苦役の一つ。
ナチンカキ……なつの間に合わせて、夏に間に合う準備。
ナチンバンド……夏の番が来る。なつの仕事は決まっている。
ナチシュウヤ……夏にしましょう、夏の行事にして、夏行事。
ナチドマ……夏にでも、なつにしてから、夏の任せて。
ナチクソ……夏の草が大変、夏草は乾燥して餌に、夏草大変。
ナチマワシチョケ……夏に回して手前から、夏の行事に。
ナチナリャ……夏になれば季節の用事、夏の作業が目白押し。
ナチコス……夏にしてこそ、夏だからする仕事、夏の行事。



な ナツドマホタル……夏なら蛍が恋しい、夏の蛍は情緒もある。
ナッチャンナ……なってあげたら、加勢してあげたら。相手に。
ナッチャラン……なってあげられない、なれないので、無理で。
ナッチョル………なっているので、相手していますから。
ナツクトムゲネ………懐くもので愛情が、寄り添うと一層。
ナッテンイイ………なってもよいです、相手しますから、了解。
ナッチャロウ………なってあげます、相手してあげよう。
ナッチョクカ………なりますか、相手になります、納得したので。
ナツタント………なったようです、相手しますから、出番が来て。
ナツマキュ………夏に撒く季節野菜、夏だけに向いた。

ナツタデ………なりましたよ、成功したので、実りました。
ナツヨロケ……夏には弱い体質、夏の暑さに用心を、夏対策を。
ナッチョケ………なりなさい、なってあげなさい、相手して。
ナッチョラン………なっていないようで、実らないので、不作で。
ナツタ………実りました、豊作で、無事に成功した、完成です。
ナツタント………実りました、完成したようです、達成して。
ナッチミヨ………なってみると、役柄は難しいが、やれる役。
ナデルリヤ………撫でてあげたら、撫でてもらいたいようで。
ナデマエーチ………撫でられて喜ぶ性格、撫でられるのもよい。
ナデテン………撫でてでも嫌わないのなら、撫でて喜ぶ人は多い。

ナデテンイイ………撫でてよいのなら、撫でられて嬉しい。
ナデチャロウ………撫でてあげましょう、撫でるのは情愛の証。
ナデラレチ………撫でられて相手の気持ちも、情愛こまやか。
ナデノニ………撫でてすぐに、撫でられた気持ちは、相手の態度。
ナデクリヤ………撫でるのに乱暴では、乱暴な当たり障りは。
ナドバナシ………謎の話は夢もあるが、謎の話の怖さに戦く。
ナドンゴタル………謎のようだけど現実の。謎とはことなる夢も。
ナドリヤ………触って感触を確認する、触る手当てで病根を。
ナドバナシュ………謎の話が展開すれば、謎は夢でも現実は。

な ナドツタナ…上から撫で伝わって、撫でて確認して、たどる。
ナドラルリヤ…撫でられると気持ちは、撫でただけでも指で。
ナドヨリヤ…謎よりは真実性があるが、謎には夢もあるから。
ナドッチミリヤ…撫で伝わってみると、撫でた見た感触は。
ナドラニヤ…撫でただけではわからない、撫で伝わって行く。
ナナタ…七つは、数字の七、七才の子ども、七つと数える。
ナナシン…名前はなくても、名前は重宝だが、名前は便利。
ナナシ…名前は伏せて、名前は斯くしても、名前は知らぬ。
ナナメ…斜線、斜めに向かう、斜め線が目標になど。
ナナミー…斜めに向かって、斜めの方向に、斜めは広まる。

ナナミオケ…斜めにおいて、斜めに利用すれば。斜め方向。
ナナマガリュ…七つも曲がる、多く曲がった道路、段差解消。
ナニデンイイキ…なにでもよいので、なにでも構わないから。
ナニユ…何を、なにでしようか、なにかご用ですか。
ナニンカニン…なにかにも、とにかく、本当に大変。
ナニ…何です、何でしようか、どうしたの、何事ですか。
ナニシテン…どうしたことで、何事ですか、あまりにも。
ナニションノ…なにしていますか、どうしたのです、さて。
ナニモカニモ…なにでもかにも、すべてが、いろいろが。
ナニワブシカタリ…浪曲語りの人、浪花節と言う芸能。

ナニサマ…なにぶんにも、どうにもならぬので。
ナニエ…なにでしようか、どうしたのですか、さて何かな。
ナニウ…何を、何か言いたい、何か質問でも、疑問が。
ナニスンノ…何をしますか、何をするので、何か用事。
ナニモンカチ…何物かと疑問に、何者か不明で、疑問が。
ナニカシラン…はっきりわからないが、疑問が、不明で。
ナニイイヨル…何か言うのが不明、聞き取れない、疑問で。
ナニンカチャ…何かと、何か聞きたいが、何物かと、疑問が。
ナンジャラホイ…まったく解らないのでつい、それも疑問。



と トリオーチョケ……とりあいながら、相手して時間を過ごす。
トリオーテン………相手していても、相手が予想外だけに。
トルキジャノ………取るつもりのように、取られないように。
トルリャ………取れるのなら、撮るつもりのように、取れたら。
トルブンニャ…取るだけなら、必要分なら、少しくらいなら。
トルナセカン…とるのなら急がない、いつでも都合よい日に。
トルゴタリャ………取るようであれば、撮る時間を早めに。
トルメーノ…取らないだろう、取られないように、泥棒用心。
トルンナラ…取るのであれば、撮るまでには、取られ損では。
トルキ…取ってもよいでしょう、撮る予定になっているので。

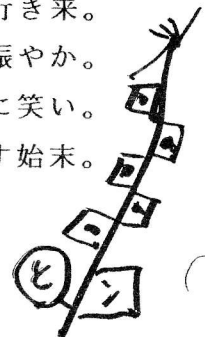
トルナイイガ…とってもよいが、気に要らなくても、勝手に。
トレタブンナ…取れ多のはあげるから、始末すれば、自由に。
トレンジャツタ………取れなかった、上手に取れば取れるから。
トレメーガ…取れないでしょうが、道具を使って、台を利用。
トレンコター………取れないことは、道具を使って、台も利用。
トレタンカ………取れましたか、取れたのなら持ち帰りを。
トレタゴタル………取れたようだから、取れたなら安心、OK。
トレルリャ…取れるようなら、とれますなら、取れたら自由。
トレブンナ…取れたち分は持ち帰りを、取れたら自由にして。
トレルルカ………取れますかな、とれたらあげるから、取れば。

トレテン…………取れても、取れたとて美味しくはないが。
トロードチ………取るつもりのようなだが、取るのは困難だから。
トロビジ………緩やかな炎で、低温で気長に、ゆっくり煮込む。
トローチスリャ………取りたいが危険も、とるには技法が必要。
ドロドロ………柔らかに煮えて、醜い有様の、予想外の煮え方。
ドロユウオテタカ…泥はよく落ちたか、泥仕事の後には清潔に。
ドロオトシ…田植え後の入湯、泥落としの風習で、田植え終。
トロモンナラ…取るものなら罰が、取ったらいつか取られる。
ドロビーチ…泥まみれの醜態、田植え後の功績、泥が似合う。

と ドロタン……泥田でん米は出来る、百姓にゃ大事な場。
ドロット……柔らかなねばねばが、仕上がり上等な料理。
ドンドコ……調子よく気分も満点、晴れ舞台の踊り大会。
ドンケツ……一番最後に走った、最後まで走るのに意義が。
ドンジ……最後になったがそれも価値あり、最後があるから。
ドンナ……下手の終わりだが。下手でもやる意気込み。
ドンジリ……最後の仕上がり、それでも途中やめよりも。
ドンノクボ……後ろ首、急所ともいわれる、大切な場所。
ドンク……方言のドンコ、美しい水に育つ独特なスタイル。
ドンドンサマ……雷さま、雷神、稲妻と一緒に雨を降らす。

ドンビャクショウ……本当の農家の人たち、米つくりの主。
トンツク……太鼓の調子に心浮き浮き、囃子に乗せられて。
トンチーチョケ……つかまって落ちないように、しっかりと。
トンデンネエ……とんでもないことで、予想外な事。
ドンコンナラン……どうにもならぬ、失態が起きる事も。
ドンゲズリ……どちらのほうに、方向が狂うと、方向音痴。
トンジマワツチ……飛びながらはしやぐ、飛躍した躍動。
トンドワカラン……全くわからなくなって、慌てて動くので。
トンチンカンナ……常識はずれな有様に、紆余曲折な状態に。
トント……全くの有様に、見境も解明も、恥ずかしい有様。

トンジイッチ……飛んで走ってどこ行くの、どこまで走る。
トンチーチョカニャ……しっかりつかまえて、危ないから。
トンジョリャ……飛んでいればなんとか、走っていれば。
トンマン……まったくあわて者で、見境なく走って行くので。
トントンベベ……祭りの着物着て行くのか、美しい着物が。
トンジャヘモドル……走ったかと思うと引き返して、行き来。
トンベチャリ……飛んだかと思うと走り、ひょうきんに賑やか。
ドンナマァ……慌てて笑わせる、ひょうきんな仕種に笑い。
ドンナコツ……失敗の繰り返しに自分も笑い、嘔き出す始末。



お断わり申します。87p-88Pには 『と』の項で『リ』と『ロ』が 残りましたので ここに遊びに入りました。のでお許しくださいます。『と』の項は ここまで遊びに来たので終わりの分が ちょっと飛び跳ねました。『と』だけに飛んだことで とんだ手違いに ご免なさいませ。続いて『な』の項『ツ』に進みます。

な ナノッチクル……………名前を言いながら、名前を紹介して。
ナノラニャ…名前を言ってください、自己紹介して、お名前。
ナノラルリャ…名前まで言われると、名前を聞いてびっくり。
ナノジャワ……………なのですよ、そうなのです、ですから。
ナノハノ……………菜の花を摘む、菜の花料理に、春の風物詩。
ナノリュ……………なまえを言いながら、自己紹介により、私です。
ナノネエコタ……………名前が解らないと、名前からお願いします。
ナノリャワカッタ……………名前を効くと解る、お名前は前々から。
ナバトリ……………きのこ取りに、きのこ狩り、きのこのある場所。
ナバムシリ…きのこの収穫、きのこの取り入れ、しいたけ収穫。

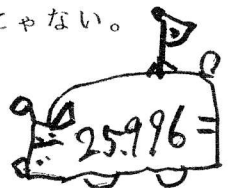
ナバデン……………なばでも、きのこでもどう。シイタケ料理に。
ナバナラ……………きのこなら、キノコは知っているか、しいたけ。
ナバメシュ……………キノコ入り飯、しいたけの入った飯。
ナバドマ…きのこでも、きのこ取りに案内、しいたけどうど。
ナバトリュ……………キノコは多いから、どく入りもあるので。
ナビーチョル…気があるのか、風に傾いて、こちらに向いた。
ナビータカ……………なびくほどの人で、気があるのでは、微風に。
ナビカンデ……………知らないよ、風にも平気で。気にしないから。
ナビーショレ……………風にそよいで、気があればそれもよい。
ナビクゴツ……………気があるような、素振り解る気持ちか。

ナビータント……………風がつよかったので、出来はいいようだが。
ナブッテン……………陰湿ないじめに、いじめの醜態、いじめは。

な ナフタリン……防虫効果の薬剤、昔の生活の防虫薬、樟の木。
ナブリマエーチ…卑劣にいじめて、悪質ないじめ、非常識な。
ナベカル……鍋があればなんとか生活が、鍋も借りる生活。
ナベデン……鍋も多様な入れ物、鍋さえあれば生活満能。
ナベカマ……鍋と釜があればどこでも生活、最低生活用具。
ナベスケ…鍋を下ろしたときに敷く用具、鍋墨の汚れ除けに。
ナベカモ……鍋ができれば鴨がねぎが、鍋と連想する料理手法。
ナベソコン……鍋そこに焦げた万金の味、その焦げは珍品。
ナベツクロイ……鍋の修理職人、鍋を補修して再利用。
ナポートル……キノコを取って、きのこ料理は乙なもの。

ナボカル…キノコから出しを取り、キノコの出し汁季節ん味。
ナマズウ…生々しいもの、生のまま土葬、死んだ死体は生の。
ナマヌリ……温度の低い湯加減、沸かし足りないお湯の温度。
ナマカタ……おおよそは、あらましながら、だいたいは。
ナマジヤキ……生のままですから、生きていたままに。
ナマシイ…まだ新しい物で、枯れないままの、切ったばかり。
ナマキザー……切り傷がまだ新しいので、けがしたばかりで。
ナマゴロシ……死にかけている前、半分は死んだうだけど。
ナマクラジ……鍛えがたりない、不十分な鍛練で切れない。
ナマニエデン……まだ煮えていないようで、煮えないままに。

ナマキダ…傷したばかりのひどい、傷が生々しくて、出血が。
ナマナマシイ……見た目にも真新しい傷、けがしたばかりの。
ナマミタ…人間はみな生身である、裸で生まれた生身の怖さ。
ナマキゲン……病で機嫌がよくない、病気で起きあがれぬ。
ナミドー…涙を、なみだを隠して、涙は見せないが、涙我慢。
ナミドナガセ…涙を流しなさい、涙は流れて後は、涙も出ず。
ナミンモンジャ……普通のものではない、そこらにないもの。
ナミユー……波を、波が押し寄せる、波の怖さが深刻で。
ナミジャネエ……普通じゃない逸品、そこらそんげにゃない。



な ナミナミン…いっぱいに入れて、万盃にしてあげる。万タン。
ナミダモリー…涙がすぐにでて、涙をさそうような話に。
ナミドミタ…涙をみるとつまされる、涙をさそうような。
ナミドミスナ…涙は禁物だから、涙を誘うようでは、涙話。
ナミジャ…普通の状態、普通の新物では、まゝ絶えられる。
ナムンナヤ…軽蔑したのでは、尋常ではないのだから。
ナムダイシ…弘法大師様の総称、お大師の信言、大師の尊称。
ナムリャコス…人は見かけによらぬもの、相手は大事に。
ナムンナ…馬鹿にしてはいけない、相手は尊重してこそ。
ナムルンカ…軽蔑すると安く見られる、相手は大事にして。

ナメクジュ…なめくじ、なめくじを退治する、なめくじ防除。
ナメチョリャ…相手を甘く見ると逆転、相手の真意を見極め。
ナメヤガッタ…軽蔑は自分を安く見られる、尋常に。
ナメランカ…混じっての好誼がお互いに、友好親善が得。
ナメチミリャ…味見をするのも料理の鍵、味見が肝心。
ナメラルル…なめるこしで真価が、軽蔑される、安く見られ。
ナモネード…名前も知られる程では、大したものではないが。
ナモアル…有名人の聞こえが高い、有名な人格者、ヨク効く。
ナモシラン…名は知らないが、あまり聞かないけれど。
ナヤ…小物を入れる倉庫、物入れの場所、整理ができる場。

ナヤハンサク…苗ができれば半分できたよう、苗が肝心。
ナヤンスミ…物置の隅で、小屋の片隅、物置の隅っこ。
ナヤンツシ…小屋の階上部分、物置の上の空間、物入れの棚。
ナヤサンゴ…小屋などの、物置などの、物小屋などに。
ナユリャコマル…体が不自由になると、不具合は不幸。
ナユージュル…弱ってしまった、体調が悪くなって不幸。
ナユウイー…苗を植えつけ、植え付けがすめば。
ナユリャ…弱って不自由になると、達者な体が一番幸せ。
ナユトリユ…苗取りして植えつけを、苗ができれば植えつけ。

な ナヨナヨシヨル…弱よわしい風体、弱ったように感じられる。
ナヨリヤ…直れば、治れば最高。治ってよかった、これから。
ナヨリカケチ…治りかけたので、治りかけが一番。
ナヨッチョル…治っているので安心した、治ったら用心。
ナヨッタカ…治ったようで安心したよ、用心しなさいよ。
ナヨッタノ…治ったのですか、なおったなら用事して。
ナラベサゲーチ…いろいろならべてまゝ、いろいろ言わずに。
ナランデンイイ…ならなくてもよいから、ならなくてよい。
ナラベタンカ…ならべたのですか、ならべきったのね。
ナラワンデン…習わなくても覚えた、習わずとも知っている。

ナラシ…鳴らしておどかす、鳴らして呼び寄せる、平らに。
ナラシメー…鳴らさないで、平らにしないで。
ナラカス…鳴らして知らせる、鳴らせばわかると思う。
ナランカン…ならないかも、ならないようなら。
ナランナラ…ならないようなら、ならないなら別ので。
ナラサレチ…鳴らされて覚えたから、鳴らせばわかるので。
ナリメートン…ならなくても、ならないようなら。
ナリヨッタ…なっていましたよ、なついるので、なると思う。
ナリヨルド…なっていますよ、なっているようで。
ナリタガル…なりたがるならさせたら、希望ならやらせて。

ナリソコノウチ…なれなかったので、なれないなら次に。
ナリタガラン…なりたくないなので、なりたくないから。
ナリオワッタ…なり終わったので。終わりにしましょう。
ナリナーエ…なりなさいよ、なってくださいよ。
ナリフリカマワン…お構いなしにふるまう、勝手気ままに。
ナルタケ…できるだけ、できたら希望通りに。
ナリテーオモワン…なりたくはないので、希望しないから。
ナリヨル…なっていますよ、なったようですから。気ままに。
ナルリヤイイ…なれたのならよいでは、なったなら気ままに。



な ナルメー…ならないでしょう、ならないと思うが、無理です。
ナルタケ…出来るだけ、出来るものなら、出来たらよいのだ。
ナルベク…出来るだけ、できたらいいなあ、できるように。
ナルベカノ…なるべく出来てほしい、出来るのを願って。
ナルメーチ…ならないと思うと、ならなければ困るが。
ナルヨウニシカ…むりでしょう、なるようにしかね、我慢。
ナルカ…なりましようか、なるのでしょうか、出来たらな。
ナルヤ…なりますか、なると信じて、出来たらいいなあ。
ナルキ…なりますから、なると信じています、確実に。
ナルケンド…なるのですか、なりますから、なるが条件が。

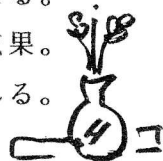
ナルコタ…なるのですが、なるかわりに、後の問題もある。
ナルクレカ…なりますよでも、なりますがこんな事が続く。
ナルリヤ…なれるものなら、なれたらいいなあと、出来たら。
ナルメケンド…ならないが、ならないと思うが、無理かもね。
ナルント…なりますから、なるのですから、勇気をもって。
ナルコタ…なるのはなりますか、なりますから後は頼む。
ナルコチ…なることにして、出来ることにして、期待して。
ナルタケ…できるだけ、できるように努力して、努力を。
ナルチュウテン…なるとは言うが、なりますから信じて。
ナルトキャ…なるときには、出来た場合は、完成したら。

ナルトキニヤ…出来た時には、完成の後の仕事も、大丈夫。
ナルリヤコス…なればこそ、慣れた場合は、なれますから。
ナルニノヤ…なれますので、慣れたら自信をもって。
ナルタ…なるといのは、なれますから心配ない。
ナルメーチ…なれないだろうから、なるまいと思うが。
ナルモンナ…なれるものなら、なるようなら、なれるから。
ナルヤタ…なるといのも、なれたら後は、なれるから。
ナルアタ…なったあとは、なれるからそのつもりで。
ナルンド…なれますから、なるんですよ、なるから覚悟。

な ナレートン………なりますから、なりますように、なるから。
ナレルリャ…なれるのなら、なれるようにあれば。なれたら。
ナレチカル…慣れてから、もしなれるものなら、なってから。
ナレメーカー…なれないだろうか、なれましょうか、慣れるか。
ナレタロウ…慣れたらいいな、なれるものなら、慣れたので。
ナレチシチミ…なれてから実行、なれましたから、なったで。
ナレカケチ………慣れかけたので、慣れてしまえば大丈夫。
ナレチョキヤ………慣れていれば、なれたので、なったので。
ナレタンナ………慣れましたか、なったのですか、役つきに。
ナレチミリャ………慣れてしまえば、なってみると、簡単で。

ナレチコス………慣れたので不安もない、なったので頑張る。
ナロードチ………なりたいばかりに、なりたいので、当選。
ナローチコス………習ってこそその成果、習ったので安心した。
ナロージョケ…並んでいましょう、並んでください、並んで。
ナローヤ………なりましょうよ、なりましたか、なったようで。
ナロードニ………並んだのに、並んだ人から順番に、並んで。
ナローデン………並んでも待つのが、並んだ得が当たりくじ。
ナロータンカ…習ったので、習った結果は満点、習って効果。
ナロタナラ…習ったのなら、ならば役得有り、習えば得に。
ナローコタ…なるようなら、出来ればそのように、なんとか。

ナロウコトナラ………なるようであれば、出来ることなら。
ナローチョケ………習っておけばいつか役立つ、習えばいつか。
ナロータナラ………習ったのなら効果も、習った努力が報いに。
ナロージ…………並んで買い物、並んだ苦労が報いられる。
ナロージョッテン………並んでいても、邪魔物はつねにいる。
ナローコツ…………出来ることなら、できたらなんとか。
ナロチャレ…習ってあげたら、習う人も必要で、習う教える。
ナロテン………習っても、習ったのだが、習ってこそよい成果。
ナロタヌ…………習ったのを教える、習えば教えられる。



な ナワツグリ…縄でぐるぐる巻に束ねる、縄で巻束ねを作る。
ナワコスリュ…縄をこすってひげねをとる、縄をこする。
ナワトビユ…縄を使って飛び回す、縄を利用した体育。
ナワスリ…縄をすって仕上げをする、縄の見かけをよく。
ナワオビ…縄で帯の代用にする、縄を利用した束ね作業。
ナワナユ…縄をなって利用する、縄の利用度は多いから。
ナワヒミユ…縄で作った紐のりよう、紐にする縄づくり。
ナワカル…縄から準備して、縄の利用は多く広いから。
ナワツリ…縄を吊してより合わせる、縄を束ねて太くする。
ナワムスビ…縄で結んで束ねる、縄の利用は多種多様で。

ナワズクリ…縄ないあわせる事で藁の利用、縄は農具の鍵。
ナントンシレン…ばかばかしい話、大したこともない駄話。
ナンシテン…何にしても、何と言っても、話にならぬ問題。
ナンナライエ…なんなら言うのも、言ってみたらどうです。
ナンサマ…なにさま意外な、考えられない話、意外な話題。
ナンベンモヤ…何回もだしては、問題にしても、無意味と。
ナンモネエ…何も無いが、全く無いのですが、予想外な。
ナンカナシ…それはともかく、いずれにしても、そんな事。
ナンボナ…いくらですか、値段はいくらになるの。
ナンチュウン…なんと申しましても、いずれにしても。

ナンナ…なんでしょう、なんの事ですか、何事でしょうか。
ナンカシランガ…なにかわからないが、意味が解らないが。
ナンノーチ…何のことでしょう、なにか解らないが。
ナンデンネエ…なにでせもないようで、意味はないようで。
ナンナエ…なにですか、何事でしょう、どんな意味ですか。
ナンボン…いくら、そんな結果でしょうか、儲けは。
ナンジャケン…なでですか、どんなわけで、どうしてです。
ナンボナ…いくらですか、どんな結果に、結局はいくら。
ナンジャケン…どうしてですか、どういうわけて、なで。

な ナンノナンノ…とてもそれくらいでは、簡単じゃないですか。
ナンベンデン…何回でも、いくらでんよいよ、遠慮のうな。
ナンデンカンデン…なんでもいつでもな、遠慮なく言うて。
ナンベンシテン…何回しても、何回でも飽きないから。
ナンビンカンビン…銭金にゃ変えられないから、無答な事で。
ナंकシユ…難癖就けたがる性格、無理押しする解らず屋。
ナントンネエ…なんでも無いよ、関係ないから、へいちゃら。
ナंकウダ…投げこんだので、投げこめば、後はおまかせ。
ナンドン…納戸の奥に、納戸の楽しみ、何度も言わないよ。
ナント…なんですよ、こんな事情があるので、知らぬが仏。

ナンチャ…すぐに言いぐさに、いつでも矢面に、相手にする。
ナンボナンデン…いくら何でも、勝手気ままで、自由奔放。
ナンニシテン…いずれにしても、それは無理な、世間知らず。
ナンヤ…なにですか、それは無理では、そんな事は通らない。
ナンノ…なにでもないよ、無理は通らないよ、それは自滅に。
ナンモシラン…何も知らない、全く知らない事で、無知で。
ナンボン…いくら価値、見識がないので、価値観は不明。
ナンボカンボ…何といっても、いくら言われても、無理難題。
ナンカカル…寄りかかって、そばに寄り添う、片寄りかかり。
ナンヤカ…なんなのか、不思議な現象、おかしい存在の。

ナンチャ…何事かになるとすぐ、事あるごとにすぐ。
ナントンシレン…大したこともないのに、得体も知れない。
ナンデン…何でも、何事でもすぐ持ちこむ、問題解決場所。
ナンチュテン

ナンチュウニ…なんと申しても、いずれにしても、解決優先。
ナンベンチャネエ…いくらも言って、いい知恵だし合う。
ナंकウジ…投げこんで、後は頼むじゃ無責任、懇切に依頼。
ナンケナシ…何はともかく、そのままにせず解決を。
ナンコミヤ…投げこむと済むが、後の始末は誰がするの。



に ニーダゴタル…脱いだようです、抜いたらしい、脱ぐじゃろ。
ニールスル…眠らせる、眠らせたら仕事も、眠れば安心。
ニール…寝たようですから、やっと眠ったので安心、寝たよ。
ニーヤン…おにいさん、年上の男の人、たくましい男性。
ニール…眠りなさい、寝たのは聞き訳けよい、寝る子は育つ。
ニアケー…賑やかな事で、賑やかくて楽しい、皆な浮き浮き。
ニアイン…よく似合うので、似合いの夫婦らしい、仲睦まじ。
ニアワンケンド…似合わないけれど、似合わないようだが。
ニアギューシヨ…少し縫い上げしないと、少し補正したら。
ニアゲンイワイ…取り入れが済んだお祝、区切りがついて。

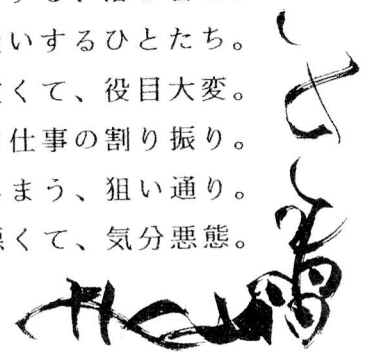
ニアネーチ…荷物は済んだので、荷運びは終わったので。
ニアイミュート…お似合いの夫婦で円満、おしどり夫婦。
ニアユ…似合ったから安心した、予想以上に似合う夫婦。
ニイリヤネル…寝こんでしまえば安心、ぐっすり寝たようで。
ニイツタラ…ぐっすり眠ったら、しばらくは寝ているから。
ニイツタカ…眠ってしまったようで、しばらくは寝ている。
ニイナ…川にいる貝の一種、素朴な味に哀愁がある。
ニイビー…悟りに時間がかかる、鈍感な性格たけとど。
ニイラニヤ…眠らないと、眠ってしまえば、寝たら長くなる。
ニイリバナ…眠ったばかりなら、寝てすぐなら起きるかも。

ニイル…寝入ってしまう、寝たなもう安心、しばらくは眠る。
ニウジ…飲んでいる、飲みかけたようだから心配ない。
ニウセ…荷物を運ぶのに乗せる、牛馬で荷物を運ぶ。運搬に。
ニウト…お風呂に入る、温泉に行く、田植え休みに入湯。
ニエテン…煮えても、煮えていても、煮えたとしても。
ニエン…煮えないから、はっきりした気持ちが知れぬ。
ニエンヌ…煮えないので、煮えていないようで、まだ煮えぬ。
ニエンデ…煮えないですよ、なかなか煮えなくて。
ニエタンカ…完成は、煮えたのか確認を、煮えたの確かめて。

に ニエリュノー……煮えるでしょう、煮えると思いますが。
ニエニャ…煮えないと困るが、煮えると思います、煮える。
ニエンゴタリャ…煮えないようなら、煮えない時は何とか。
ニエチョル…煮えているので、煮えていますから、煮えた。
ニエクリアガッチ……煮えすぎるくらいに、煮えて食べて。
ニエン……煮えないが、煮えないので困っています。
ニエチョリャ……煮えています、煮えているので、食べて。
ニエテン……煮えてもすぐ食べない、煮えたらしまって。
ニエクーダ……車輪がはまってしまい、車が沼に入って。
ニエユ…沸かした湯を飲まされて、お茶の入らないままに。

ニオウド…匂いますから、匂いがひどいようで、凄い匂い。
ニオビ……安全第一、子守用の帯、帯をかけて子守をする。
ニオオリーチ……荷物を降ろして、荷物がついたので卸す。
ニオカヤス……荷物が片寄って積まれた、片方に傾いて。
ニオクリャ……荷物を送るのは、荷物運びの仕事。
ニオヨセチ……集荷所、荷物を集めて、荷物を運ぶ準備ど。
ニオワン…匂わないようで、匂いは感じないが、消えたか。
ニオチョル……似合っています、似合っているようです。
ニオヤ……匂いは、匂わないので、匂いは感じないから。
ニオイヨル……匂っているが、匂いはあるけれど心配ない。

ニオイガイイ……匂いのよい場所、香りがよくて。
ニガリュ…豆腐をつくるのでお願い、豆腐作りには必要。
ニカギ…荷物を扱うのに使う手鍵、取扱いに便利な用具。
ニガオレタ……終わって一息終わり安心する、落ち着き。
ニカトー……荷物係の人たち、荷物扱いするひとたち。
ニガオモトジ…荷物が重たくて、責任が重くて、役目大変。
ニガカリ……荷物が軽いので、楽な仕事の割り振り。
ニガサン…逃がさないから、捕まえてしまう、狙い通り。
ニガムシャ…嫌いなものは、見かけが悪くて、気分悪態。



あとがき

方言調査に取り組んで約16年 20周年の年には 全国善行会から地域の 公共活動に寄与した『善行章』を 頂いてさらに 頑張る気持ちで ご支援くださる皆様 ご愛読の皆様の暖かい お気持ちを大切に 継続する事も出来ます。今だから残さないと 消え去り なくなってしまう哀れさに 先人が大切に生活に使った 言葉の文化財を 記録にしていまいりました。

ここにたどり着いて 方言単語も26000語を越え なお後を手繰り寄せながら 残りも収拾掲載すると 約45000語は掲載出来そうです。

今回も《No.26号》お馴染みになった 女性の底力、民話伝承、ふるさとの味、方言子どもの世界、あげな話こげな話、宝の玉手箱、ちよつと一服、そして方言単語。などジャンルに別けて編集しました。読んでくださる方が 肩の凝りも忘れる そんな間隔で疲れたな と思う頃には次の仕切り版が 出てきます。

五助さんと若い娘の『宇曾山街道物語』も 6回目で次回は7回目の最終回に 辿りつきます。今回も大勢の皆様の ご支援により完成しましたが まさに皆様が作ってくださっている そんな感触も受けて常に 皆様と二人三脚での発行にも 思えて幸せ満喫しています。本当にありがとうございます。

いつまで どこまで続くかは未知数ですが こんな思い出が残るのも 皆様のご援助があってこそその壮挙。引き続き宜しく願い申し上げます。ご自愛なさって 次号お楽しみに お待ちくださいませ。病気、怪我、事故、火災、盗難、などに遭遇なさらないうよう ご祈念申しています。

編集員一同

伝言板

次号の
ご案内

No. 27

『五助と娘の街道物語』道中 いよいよ最終回。になりました。多くの皆様のご支援の 資料ははじめかって昔聞き取りした話 また聞きの話なども入って 故郷の東の顔でもある 宇曾山にスポットあてました。

ジャンルでは 民話伝承、故郷の味、方言子どもの世界、あげな話こげな話、宝の玉手箱、ちょっと一服、広がる単語。など毎回のスターが並び賑やかな故郷の 四方山話が華を咲かせ 影にあった『あん人この方』の 人間性が仄かに 浮き彫りもされます。

関東地域のご愛読者から 肩のこらない読み物だけに 到着がいつも待ち遠くて 発行の連絡に家族まで 喜ぶようになった由。中には方言文章での 励ましに嬉しい限りです。

肥後街道の中でも 昔の町村の中では 野津原が20キロメートルと 一番長いのではなかろうか。と自負しています。それだけ加藤清正公も 野津原を大事にしてくれ 今日の礎になったのではないのでしょうか。史跡はあまりない それは贅沢はしなかった証かも。そんな気持ちを大切にして 隠れた仄かな話題 そんなことが と思われるような逸話も これから取り上げてまいります。

ご支援者、ご愛読者の皆様に励まされて 26年次回も頑張りますので ご協力宜しくお願い申し上げます。ご自愛の程を。

野津原方言調査会 会員一同

